創立70周年

1955～2025

会史

一般社団法人

大阪府歯科技工士会

目 次

◆ 会旗

◆ 歴代会長

◆ 70周年記念式典・祝賀会

◆ 会館

◆ 歯科技工士の倫理網領

◆ 創立 70 周年によせて …… 1

◆ 祝辞 …… 2

◆ 沿革 …… 6

◆ 10年のあゆみ …… 7

◆ 特集 近畿デンタルサミット開催 …… 67

◆ 表彰者 …… 70

◆ 歴代役員 …… 71

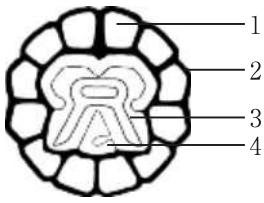
◆ 歴代支部長 …… 82

◆ 会員数の推移 …… 83



会　旗

会章の解説



⑴外型前歯上下をもってヒマワリを表し、太陽に向かって成長する図。

⑵中型臼歯の断面図をもってＴの文字を表しTECHNICAN（技術者）の意味。

⑶ASSOCIATIONの頭文字Ａの変形。組織団体を表す。

⑷DENTAL（歯科）の頭文字Ｄの変形。

⑸総体色の金銀は歯科界で最も多く使用する重要な金属を表す。

歴代会長年譜

初代・２代
宮津　一



S30/9 ～ S34/3

３代
小原　時重



S34/4 ～ S36/6

４・６代
西田　圭介



S36/7 ～ S37/3
S40/4 ～ S42/3

５代
迫　末弘



S37/4 ～ S40/3

７・８代
三谷　喜彦



S42/4 ～ S44/3
S44/4 ～ S46/3

９代
川上　富雄



S46/4 ～ S47/1

10代
山崎　育男



S47/5 ～ S49/3

11代
小味　三郎



S49/4 ～ S51/3

12・13・14代
尾上　隆夫



S51/4 ～ S55/3

15・17・18・19代
米倉　正雄



S55/4 ～ S57/3
S59/4 ～ S62/3
S62/4 ～ H2/3
H2/4 ～ H5/3

16代
長田　勲



S57/4 ～ S59/3

20・21代
森岡　寛



H5/4 ～ H8/3
H8/4 ～ H11/3

22・23・24代
速見　憲



H11/4 ～ H14/3
H14/4 ～ H17/3
H17/4 ～ H20/3

25・26・27代
時見　高志



H20/4 ～ H23/3
H23/4 ～ H26/6
H26/6 ～ H28/6

28・29・30代
清水　潤一



H28/6 ～ H30/6
H30/6 ～ R2/6
R2/6 ～ R4/3

31・32・33代
前川　清和



R4/4 ～ R6/6
R6/6 ～ R8/6
R8/6 ～ 現在

会創立 70 周年記念式典・祝賀会

令和 7 年 10 月 26 日
於：ホテル日航大阪



大阪府健康医療部
部長 西野　誠 様



日本歯科医師連盟会長
太田 謙司 様



一般社団法人日本デジタル歯科学会
理事長 末瀬 一彦 様



公益社団法人日本歯科技工士会
会長 森野　隆 様



一般社団法人大阪府歯科医師会
会長 深田 拓司 様



公益社団法人大阪府歯科衛生士会
会長 山口 千里 様



一般社団法人大阪府歯科技工士会
会長 前川 清和



受賞者代表謝辞
西村 元彦 様(南大阪)









知事表彰　前列左から　西村 元彦 様(南大阪)、千葉 直樹 様(北東)



式典：司会
理事 脇本 菜々子



式典：開式の辞
副会長 長久 宏之



式典：閉式の辞
副会長 南郷谷 亨







知事感謝状　前列左から　田中 雅人 様(南大阪)、藤原 敏郎 様(北東)、
原 利和 様(北大阪)、北田 洋士 様(北東)、町田 昌紀 様(中央南)



会長表彰　左から　齊藤 峰信 様(北大阪)、前川会長、榊原 秀典 様(中央北)、山田 貴秀 様(南大阪)



会長感謝状　後列左から　榎本 俊輔 様(中央南)、檜垣 圭太 様(北大阪)、山元 勝敏 様(北東)、南　裕康 様(南大阪)、田光　創 様(南大阪)
前列左から　草壁 浩之 様(北大阪)、中川 達矢 様(北東)、前川会長、明上 辰巳 様(中央北)、下郡 俊映 様(中央北)



会長特別表彰　左から　山本 友美子 様(事務局)、前川会長、米ヶ田 愛子 様(手話通訳)、中野 茂彦 様(手話通訳)



祝賀会：開会の辞
専務理事 堀之内 朋哉



一般社団法人大阪府歯科技工士会
会長 前川 清和



自由民主党大阪府支部連合会会長代行
参議院議員 松川 るい 様



一般社団法人日本歯科技工所協会
会長 木村　正 様



鏡開き



乾杯：公益社団法人日本歯科技工士会
副会長 山下 茂子 様



祝賀会：司会
理事 岩佐 美穂





ゴスペル演奏　ザ・ソウルマティックス





祝賀会：閉会の辞
副会長 櫻井 靖之



大阪市住吉区我孫子５－14－７

歯科技工士の倫理綱領

歯科技工および歯科技工学は、人びとの心身の健康の維持もしくは増進を図るものであり、歯科技工士は、口腔保健医療関係者の一員として、その職責の重大性を認識するものである。

1. 歯科技工士は、歯科技工学の進歩発展に寄与することを責務とし、生涯を通じて知識と技術の習得に励む。

2. 歯科技工士は、歯科技工によって社会に貢献できることを誇りとし、もてる職能を余すところなく発揮する。

3. 歯科技工士は、良質な口腔保健医療の実現を図るために、医療関係者と緊密な連携のもと相互信頼を築く。

4. 歯科技工士は、医療専門職としての職責を自覚し、社会の一員として法規範の遵守と法秩序の形成に努める。

2000 年 9 月

公益社団法人　日本歯科技工士会

一般社団法人大阪府歯科技工士会
創立70周年によせて



一般社団法人　大阪府歯科技工士会

会長　前川　清和

一般社団法人大阪府歯科技工士会創立70周年にあたりご挨拶申し上げます。

大阪府歯科技工士会は会員の皆様に支えられ、本年無事に創立70年を迎えることが出来ました。この記念すべき70年という大きな節目の年を迎える事ができましたのも支部長並び支部役員、会員の皆様のおかげであり厚く御礼申し上げます。

直近の10年を振り返ると激動の10年であったと思います。

CAD/CAM冠の保険収載により歯科技工は大きく変化しました。それにより大手歯科技工所では歯科技工士の労働環境や労務環境も急速に整備されてきました。歯科医療のデジタル化において我々歯科技工士も変化を余儀なくされましたが今後、歯科技工士が減少してもコンピュータ支援で生産性をあげ少ない人数でも対応できる希望も持つことが出来ました。

それから2020年から2023年は新型コロナウィルス感染症が猛威をふるい、政府からも非常事態宣言が発出され生活環境も一変しました。しかし、歯科医院でのクラスターは無く歯科技工所の被害は最小限に抑える事ができたと思います。大阪府歯科技工士会は清水前会長が全国の歯科技工士会で唯一、新型コロナウィルスワクチン職域接種を行い歯科技工士が医療従事者として認められたと実感しました。

一般社団法人大阪府歯科技工士会の軸である学術活動では2019年、2023年に近畿デンタルサミットを開催し、2回とも1,000名を超える多くの方々に参加して頂きました。2023年の第2回近畿デンタルサミットでは加藤前厚生労働大臣が講演していただくことができ、大阪府歯科医師会に協力していただいた結果、実現することが出来ました。今後もデンタルファミリーが一丸となり地域歯科医療を守って国民の歯科医療に寄与する事ができればと考えています。

最後にこの業界が次世代へと継承して今後10年、20年とこの大阪府歯科技工士会が進歩発展する様に現執行部一同、全力で努力していくことをお約束して、創立70周年のご挨拶とさせていただきます。

祝 辞



大阪府知事

吉村　洋文

一般社団法人大阪府歯科技工士会が創立70周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、日頃から本府の健康医療行政の推進に御協力いただき、厚くお礼申し上げます。

貴会におかれましては、昭和30年の設立以来、歯科技工士の専門性の維持・向上に尽力され、平成の時代を経て令和の今日に至るまで、その活動の輪を広げてこられました。永年にわたり歯科技工の質の確保・向上を通じて歯科医療及び歯科口腔保健の増進に寄与し、府民の「おいしく食べて思いきり笑える暮らし」に貢献してこられたことに、深く敬意を表します。

特に、技術向上セミナーや講演会等、日々進化する歯科技工技術の研鑽に向けた多くの取組みは、府民生活の質の向上に大きく貢献するものであり、また、歯の健康展等を通じた府民への啓発や、多職種との連携等による「歯の手話」の普及など、府民の歯と口の健康づくりに向け、多岐にわたる活動を展開されてきたことに対しまして、改めて感謝申し上げます。

本府におきましては、昨年「全ての府民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現～いのち輝く健康未来都市大阪の実現～」を基本理念とする「第3次大阪府歯科口腔保健計画」を策定しました。この計画では、基本方針として、府民一人ひとりがかかりつけ歯科医をもち、歯科疾患の予防、早期発見等に取り組むことができるよう、医療保険者、保健医療関係団体、教育機関、市町村など多様な主体と連携した取組みを行うことを掲げています。歯科技工士の皆様におかれましては、歯科医師・歯科衛生士とともにチーム医療の一翼を担い、かかりつけ歯科医と連携し、歯科技工の業務を通じて府民の口腔機能の維持・向上に大きな役割を果たしていただいていることに重ねてお礼申し上げます。今後とも、その高い専門的知見と技術を活かし、本計画の推進にご協力いただきますようお願い申し上げます。

さて、今年開催された大阪・関西万博では、世界中の人々が集い、健康や医療をはじめ、様々な分野における課題解決に向けて、革新的な技術やアイデアが示されました。今後は、万博を契機とした府民の健康づくりの機運醸成を、一過性のものとせず、日常生活の中で定着させていくことが重要となります。貴会におかれましても、これまで培われた技術と経験を活かし、引き続き、府民の歯と口の健康を守る活動を力強く進めていただきますようお願いいたします。

結びに、一般社団法人大阪府歯科技工士会が創立70周年を契機に、更なる飛躍と発展を遂げられますこと、また会員の皆様方のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

一般社団法人　大阪府歯科医師会

会長　深田　拓司



大阪府歯科技工士会が創立70周年を迎えられることは誠に喜ばしいことであり、心からお祝い申し上げますとともに、日ごろからの大阪府歯科医師会へのご協力に対し深く感謝申し上げます。

貴会は昭和30年に設立され、平成27年11月に創立60周年記念式典・祝賀会が盛大に執り行われました。それからの10年の間に我が国では、消費税の引き上げ、マイナンバー制度の開始、「令和」に改元、大阪・関西万博開催といった変化がありました。また、熊本地震、新型コロナウイルス感染症の拡大といった自然災害を経験し、働き方や生活様式が一変しました。貴会はこの間にも定期的に広報紙を発刊されるとともに、10年間専門団体として多数の講習会を開催してこられました。また令和5年の第2回近畿デンタルサミットでは、多くの有名なテクニシャンやパネリストを招へいされ、「次世代への継承」をうたい大々的に開催されました。内容も素晴らしく、大阪府歯科技工士会の活動の広さを会員のみならず、府民への歯科啓発活動としても遺憾なく発揮されたと考えております。また近畿デンタルショー2025では「未来の笑顔を創りだすデンタルテクノロジー」と題し、近畿から情報発信を行い、地域活動にも注力なさっております。このように70年にわたり貴会が発展してこられるのも歴代会長、役員、並びに会員の方々の不断の努力の賜物であると敬意を表する次第であります。

貴会と府歯との協力関係は長く、さまざまな式典への歴代会長のご出席、大阪口腔衛生協会へのご参加、そして毎年行われている大阪歯科保健大会へのご協力に感謝しております。本年も当会の100周年記念行事や第30回大阪歯科保健大会にご協力いただき御礼申し上げます。

今後はデジタル化、メタルフリー化が進み、歯科医療に求められるものがさらに変化してまいります。ですが、適合の良い優れた修復物、患者さんに満足いただける技工物が求め続けられることについては論をまちません。貴会が70周年を機会として、ますます研鑽を積まれ、患者さんや府民、国民のための歯科医療に貢献していただけるものと確信しております。

今後もさまざまな機会を通じて、府民の口腔保健の向上と健康福祉の増進に貴会と協力してまいりたいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。大阪デンタルファミリーとして大阪府歯科技工士会、大阪府歯科衛生士会、大阪府歯科医師会との関係はございますが、今後とも歯科界全体のパートナーとして技工士会との関係が一層強固になることを期待し、貴会のますますの発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

祝 辞

公益社団法人　大阪府歯科衛生士会

会長　山口　千里



大阪府歯科技工士会が創立70周年を迎えられたことに心よりのご祝詞を申し上げます。

貴会が長きにわたり歯科医療の発展において多大な貢献を果たしてこられたことに、心より敬意を表します。

人生100年時代において健康寿命延伸が重要な目標となっており、オーラルフレイル予防をはじめとする生涯にわたる口腔健康管理を歯科衛生士が中心となって担い、多職種と協同することが求められています。

とりわけ、歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士は、それぞれの専門性を活かしながら、患者様の健やかな口腔環境を支える「デンタルファミリー」として、密接に連携する存在です。とりわけ歯科技工士の皆様が担われる精緻な技術と責任は、補綴物の品質と患者様のQOLに直結するものであり、私たち歯科衛生士も日々その成果に触れ、深い敬意を抱いております。

貴会のホームページに掲げられている「おいしく食べて、思いきり笑える暮らしを―それが歯科技工士会の願いです」という言葉は、まさに歯科医療に携わる者すべての共通の願いであり、ライフコースに応じた歯科口腔保健を支える職種として私たち歯科衛生士もその実現に向けて力を尽くしてまいります。皆様が口腔機能の回復を目指し丹精込めて作製された技工物を装着するにふさわしい口腔となるよう整え、装着後は口腔衛生、口腔機能の維持向上に関わる事のできる歯科衛生士としては重大な責務として心にとめ、より一層の努力、研鑽を重ねてまいらなければならないと感じております。

昨今では、臨床現場における情報共有や合同研修会などを通じて、職種を超えた連携の輪が広がりつつあります。令和6年1月の能登半島地震においては、災害協定に基づき、大阪府歯科医師会・歯科技工士会と連携し、大阪府JDATの一員として災害歯科保健支援活動に参加いたしました。非常時における歯科医療の在り方を見つめ直す貴重な機会となり、平時の連携の重要性を改めて実感いたしました。

70年という節目は、先達の皆様のたゆまぬ努力と、会員の皆様の熱意の結晶であり、これからの歯科医療の未来を照らす希望でもあります。昨年、70周年を迎えました大阪府歯科衛生士会といたしましても、今後ますますの連携と協働を通じて、地域に根ざした歯科医療の充実を目指します。そのたのには職能団体として歯科衛生士の資質向上、離職防止、復職支援に向けて務めてまいります。

最後に、今後の貴会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申しあげ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞

公益社団法人　日本歯科技工士会

会長　森野　　隆



一般社団法人大阪府歯科技工士会設立 70 周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。この特別な節目を迎えられたのは、会務を遂行された役員の方々をはじめ会員の皆様の不断の努力と情熱、そして地域の皆様の温かいご支援のおかげだと思います。心から感謝申し上げると共に、深い敬意を表します。

貴会は、昭和 30 年（1955 年）に公布された歯科技工法（現､歯科技工士法）施行前の 9 月、歯科技工士の専門性を高め、地域医療に貢献するために設立されました。その後の道のりには、多くの挑戦と努力もあったと思いますが、会員の皆様が一丸となり、技術の向上や情報の共有を図ることで、今日の発展を遂げられたものと確信しております。

設立 8 年目には、会員に対し共済制度の発足や、昭和 43 年（1968 年）には会館建設など全国に先駆け会員に対し行動されたことは、歯科技工士全体に対しても大きな影響を与えてきたと思っております。そして近々でも時代に即した支部編成や、新たな共済互助規定への移行、また、歯科技工士養成機関はもとより、その前の高等学校との関係性の構築や、行政との関係性重視等、常に全国にある歯科技工士会の模範となり、各種事業を推し進めておられる姿勢に感謝と尊敬を感じるばかりです。

歯科技工界も 70 年という歴史の中で、幾多の変革を経験して参りましたが、近年の技術革新やデジタル化の進展は過去にない大きな変革と感じております。日本全体の人口減少、少子高齢化に拍車がかかる現在において、私たちの役割はますます重要になっています。今後も、私たちは技術の研鑽と最新の知識を身につけ、より良い歯科医療サービスを提供するために努力していく必要があります。また、次世代の歯科技工士を育成し、業界全体の発展に寄与することも重要な使命です。私たち歯科技工士会の活動が、地域の皆様の健康と幸福に寄与できるよう、引き続きのご尽力に期待をしております。

70 周年という節目を迎えた今、私たちの未来に向けて新たな一歩を踏み出し、共に成長していきましょう。改めて、貴会が模範となりさらに前進されることを心より願っております。

末筆となりますが、会員の皆様のご健康とご多幸、並びに貴会の更なるご発展を祈念し祝辞とさせていただきます。

沿 革（平成 28 年～現在）

平成28年（2016）	
4 月16日	平成 28 年熊本地震発生
6 月11日	第 3 回社員総会（大阪府歯科技工士会館）11 日 ＊任期満了に伴う理事及び監事選出　清水潤一氏が代表理事（第 28 代会長）に選任される
平成29年（2017）	
6 月10日	第 4 回社員総会（大阪府歯科技工士会館）
平成30年（2018）	
6 月18日	大阪府北部地震
6 月23日	第 5 回社員総会開催（大阪府歯科技工士会館） ＊任期満了に伴う理事及び監事選出　清水潤一氏が代表理事（第 29 代会長）に再任される
9 月 4 日	台風 21 号が近畿地方に上陸、甚大な被害を出す
平成31年（2019）	
1 月28日	重光俊憲副会長ご逝去
令和元年（2019）	
5 月 1 日	「平成」から「令和」に改元される
6 月22日	第 6 回社員総会開催（大阪府歯科技工士会館）
令和 2 年（2020）	
1 月 9 日	森岡寛元会長ご逝去
1 月30日	WHO から新型コロナウイルス感染症の緊急事態が宣言される
6 月13日	第 7 回社員総会開催（大阪府歯科技工士会館） ＊電磁的方法による総会 ＊任期満了に伴う理事及び監事選出（府技初の役員選挙実施） 清水潤一氏が代表理事（第 30 代会長）に再任される
令和 3 年（2021）	
6 月12日	第 8 回社員総会開催（大阪府歯科技工士会館） ＊電磁的方法による総会
令和 4 年（2022）	
4 月 1 日	歯科技工士法施行規則一部改正（リモートワーク、機器の共同利用などの改正）
5 月10日	厚生労働省より「歯科技工におけるリモートワークの基本的な考え方」の通知が発出
6 月11日	第 9 回社員総会開催（エルおおさか） ＊任期満了に伴う理事及び監事選出　前川清和氏が代表理事（第 31 代会長）に選任される
令和 5 年（2023）	
5 月 4 日	WHO から新型コロナウイルス感染症の緊急事態が解除される
6 月10日	第 10 回社員総会開催（ドーンセンター）
10月 1 日	インボイス制度スタート
令和 6 年（2024）	
1 月 1 日	令和 6 年能登半島地震発生
6 月22日	第 11 回社員総会開催（エルおおさか） ＊任期満了に伴う理事及び監事選出　前川清和氏が代表理事（第 32 代会長）に再任される
令和 7 年（2025）	
4 月12日	創立 70 周年記念大会実行委員会設置
6 月21日	第 12 回社員総会開催（本町・カーニープレイス）
10月26日	大阪府歯科技工士会創立 70 周年記念式典・祝賀会開催（ホテル日航大阪）

The 70th Anniversary

『次世代への継承』へ

10年のあゆみ

The 60th Anniversary

『さらなる飛躍』から

10年のあゆみ

2016 年度

平成28年度（2016）年表

4 月 3 日	技対セミナー「診療報酬改定」（エルおおさか）
4 月24日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
5 月15日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
6 月11日	第 3 回社員総会（大阪府歯科技工士会館）
6 月26日	全スタッフ合同会議（大阪府歯科技工士会館）
6 月26日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
7 月10日	新入会員説明会＆バーベキュー懇親会（中之島公園バラ園内）
7 月24日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
8 月 7 日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
9 月 4 日	学術講演会（海遊館ホール）
9 月25日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
10月16日	学術講演会「順次誘導咬合」（新大阪歯科技工士専門学校）
10月23日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
11月 6 日	実技講習会「順次誘導咬合」（新大阪歯科技工士専門学校）
11月27日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
12月18日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
1 月 8 日	新年互礼会（ホテル日航大阪）
1 月22日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
1 月29日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
2 月26日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
3 月 5 日	フェミニンフォーラム
3 月19日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）

匠の技を見る

平成 28 年 5 月 15 日（日）新大阪歯科技工士専門学校において「匠の技を見る」アドバンスコース「やさしい咬合理論その実践」～クラウンワークにおける機能的咬合面のワックスアップ～が開催された。

講師に日技認定講師の福山保則氏（中央南）にお願いし、サブアドバイザーに岩佐努さん（中央南）・遠藤聡さん（北東）・前川理事とスタッフを揃えて万全の体制で挑んだ。

午前中は咬合理論の説明を受けた。咀嚼は三次元的な動きを行い、身体の中においても最も複雑で微妙な動きである。ここに欠陥が生じた時には速やかに機能回復治療を施すのが基本的な事です。そこでラボサイドにおいて下顎運動の動きを把握する必要となります。咬合器及び・適切な計測に依るところにおける解剖学的状態を求めなければならないと思います。これらの事をふまえて機能修復をしていこうということです。

顎関節と歯牙間の欠陥のない形態学的調和のとれたクラウンの製作法を学びます。今回は上顎第一大臼歯で実習をしてもらうことに。昼までに咬合器装着して午後よりワックスアップとなります。

昼からは 4 色のカラーワックスで作業側、平衡側等色分けし盛り上げ、3 点接触点も考慮して前方運動・近心移動・側方移動と全ての咀嚼機構を考慮した解剖学的かつ機能的なクラウンの製作法の一つを学びました。

今回は学生さんも多く少々、大変だったかも知れませんが先ずは咀嚼機構を知ってもらえたことも意義は有ると思います。又、何年も継続しておりますのでこれからも継続して行きたいものです。





10年のあゆみ

第３回 社員総会

平成 28 年 6 月 11 日（土）午後 6 時より、一般社団法人大阪府歯科技工士会第 3 回社員総会が大歯技会館において開催された。会議では、平成 27 年度の事業経過報告をはじめ、会計収支決算報告および各議案について審議がなされた。

社員総会開催に先立ち、中川和彦副議長（北大阪支部）が氏名点呼を行い、45 名の代議員の出席により成立し、野首光男議長（南大阪支部）による開会宣言がなされた。引き続き、野尻隆志資格審査委員長（中央南支部）より、全 5 支部に議決権のあることが報告された。議事録署名人には、山口雅弘代議員（北大阪支部）、久家恵二代議員（中央北支部）の 2 名が指名された。続いて、物故会員に対して故人の冥福を祈り、黙祷が捧げられた。次に、上原禎治議事運営委員長（中央北支部）より、議事日程報告がされ、時見高志会長挨拶の後、右記の議事に入った。



◎第 1 号議案
「平成 27 年度事業経過報告承認の件」
清水専務理事より説明があった。

◎第 2 号議案
「平成 27 年度会計収支決算報告承認の件」
西財務理事より説明があり、「監査報告」が福間正泰監事より行われた後に、山口雅弘財務委員長（北大阪支部）による「財務委員会報告」が行われた。

◎第 3 号議案
「任期満了に伴う理事及び監事選出の件」
選挙管理委員長岡崎秀一より、理事選挙、監事選挙ともに立候補者が定数を超えなかったため、役員選挙規程第 13 条に基づき、全候補者を当選者とする旨の報告があった。

◎第 4 号議案
「任期満了に伴う外部監事選出の件」
清水専務理事より提案があった。

◎第 5 号議案
「顧問の設置と選任の件」
清水専務理事より提案があった。
上記の各議案について採決の上、承認された。



第 28 代会長に清水潤一氏

時見会長の任期満了に伴い、新会長に清水潤一氏が就任された。平成 29 年 6 月 10 日社員総会より平成 31 年社員総会締結までの 2 年間、大阪府歯科技工士会の会長として会員の先頭に立ち、会の運営を図ることとなった。

会長就任挨拶



この度、時見会長の後任として理事の皆様のご推薦を受け代表理事に就任致しました清水潤一でございます。歴代会長はじめ諸先輩、役員が築き上げてこられました実積と会員の皆様からの信頼を踏まえ、責任の重さを痛感している次第です。

さて、本会は昨年 60 周年を迎えるとともに、秋の叙勲では速見憲元会長が旭日双光章を受章され、会員にとっても大きな喜びと誇りにつつまれた記念すべき 1 年となりました。また今年の 2 月 28 日には我が国初の全国統一歯科技工士国家試験が全国 4 会場で行われ、新たな門出に相応しい幕開けとなりました。

しかし、歯科技工業界を取り巻く環境は依然厳しいと言わざるを得ません。社会的に高齢化が加速する中、義歯の需要はさらに増加の一途を辿るでしょうが、作り手である歯科技工士も御多分にもれず高齢化が進んでいます。その上、今年春に全国の歯科技工士養成所に入学した生徒数は、かろうじて 1,000 人を越えた程度です。需要と供給バランスを考えても歯科技工士、歯科技工所過多の状況はありえず、地方においては義歯の作り手がいない状況になってきています。にも拘らず技工料金に反映されていないのはなぜなのでしょう? 医療の一翼を担う自負心があるなら、今こそ歯科技工業界が一つになって声をあげる時ではないでしょうか?

日本歯科技工士会の 8 分の 1 の会員数を誇る大阪だからこそ出来ることがきっとあります。現状に嘆いて互いの傷をなめ合うのではなく、沈黙をまもるわけでもない。一歩でも一ミリでも前に進みましょう。自ら進まなければ道は開けない、ましてや救世主も現れません。

本会では卒後即入会のための組織拡充活動を展開し一定の成果を上げて参りました。新執行部からは「next stage 大阪」と題し 61 年目に相応しい新たな活動を展開して参ります。まずは技工士会の行事にご参加ください。そこからすべてが始まります。

最後に任期中の 2 年でどれだけの事が出来得るか分かりませんが、執行部一同一丸となって執務を遂行して参りますので、支部役員並びに支部会員におかれましても、ご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

新入会員説明会 & バーベキュー懇親会

平成 28 年 7 月 10 日（日）新入会員歓迎を兼ねたバーベキュー懇親会を北区中之島の“R”RIVERSIDE GRIL&BEER GARDEN」にて開催した。

当初予定人数であった 120 名を超え 145 名が参加した。開催目的である新入会員と既存会員との交流の場として企画したバーベキューであったが、冷たいビールが進むにつれ大いに盛り上がり、大阪の中心部でこのような会が開かれることが出来、参加者から絶賛の声をいただいた。最後にお楽しみ抽選会でさらに盛り上がり、散会となった。

オープンテラスでの開催で天候を心配したが、当日は天候にも恵まれ、川のほとりでのんびり出来た 1 日であった。

開催に当たってお手伝いをいただいた方々、ご協力有難うございました。





学術講演会



平成28年9月4日（日）に大阪府歯科技工士会主催の学術講演会が海遊館ホールで行われた。

今回の学術講演会は歯科技工士と歯科衛生士のダブルライセンスを持たれ、日本国民の歯科医療に大きく貢献されている西村好美先生をお迎えし、『30数年臨床に携わって見えてきたもの～歯科技工士と歯科衛生士の両面より～』をテーマに参加者106名が熱心に聴講した。臨床経験30数年もの歳月を掛け培われてきた経験をベースに技術的な側面だけでなく生物学やX線についてのお話しを交えて臨床力とは何かを力説して頂きました。歯科技工の素晴らしい未来を築くためには臨床力だけでなく、コミュニケーション能力や創造性が重要であると考えられている。

歯科技工士として日本だけでなく世界中でご活躍されている西村先生が歯科衛生士を取得されるに至った動機は、歯科技工士は口腔内を触ることができなく、歯科技工士がより歯科医療人としてのフィールドで仕事を行うためにはどうしたらいいのかを自問自答・模索され、口腔内を触ることができる歯科衛生士免許を取得されるに至った。ダブルライセンスを持つことで口腔内を触ることが可能な歯科技工士として更なるステージへと模索されているようにも感じる。何らかの原因で歯を失ってしまった場合、歯科技工士により製作された補綴物を口腔内にセットすることで咬合機能を改善することと同時に認知症などの人の健康に影響を及ぼすことが報告されている。歯周病菌が全身疾患に影響することが明らかになっている現在、歯の見た目だけを追求するだけでなく、口腔内細菌が原因で全身疾患が起こらないように炎症のコントロールを行いやすい口腔内にするために歯科技工士と歯科衛生士が共に勉強していくことも必要であると解説された。

聴講者は歯科技工士が人の健康の保持・増進に寄与する重要な歯科医療従事者であることを認識されたことと思う。

学術講演会「順次誘導咬合」



平成28年10月16日（日）大阪府歯科技工士会主催の学術講演会が新大阪歯科技工士専門学校で行われ、96名の参加者があった。

榊原功二先生の“無調整クラウンへの挑戦「順次誘導咬合」”非常にレベルの高いお話でしたが、強く印象に残ったのは、歯科技工に於いてすべてを数値化してこそ学問であり、感覚で行うことは芸術である！技工士は芸術家ではなく、技術者でなければならない。歯科技工士は若い時から、フェイスボーを使い咬合器と運動の関係性を勉強すべきであり、咀嚼サイクルでのスムーズな下顎運動を考えなければならない。ブラキシズムをし易くする咬合を作る、ブラキシズムは脳のストレス反応と考えられるから。



大臼歯は下顎をきっちりと止める役割であるので、可能な限りアングル1級を目指す、レベルは高いですが、納得できる内容で受講された方の日常技工に役立つお話が聴けたと思う。

実技研修会「順次誘導咬合」

11月6日（日）新大阪歯科技工士専門学校で『無調整クラウンへの挑戦』と題した実技研修が開催されました。

10月に行われた講演会の内容で今回の実技をしました。講師の榊原功二氏は咬合に関しては日本の歯科技工業界になくてはならない存在で、噛み合わせのみで講習を行うことができる唯一の歯科技工士です。

今回は理論と実践を2回コースで丁寧に指導していただきました。実技研修は30名の参加者が日常臨床に近い様に自分自身の印象を平均値以上の咬合器にマウントをしてその中の1歯ワックスアップするという講師側にとって非常に難しい研修でした。1級2級3級と持ち寄る模型は様々で咬合器もバラバラ、しかし一人一人のワックスアップをチェックしてアドバイスや修正していただき、とても濃い内容の実技研修会でした。

大阪府歯科技工士会は全国で一番の会員数です。その全ての会員の方々に良いと思っていただける研修会等を企画、開催をできたらと思います。





2017 年度

平成29年度（2017）年表

5 月21日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
5 月28日	新入会員歓迎会（グレースバリなんば道頓堀店）
6 月10日	第 4 回社員総会（大阪府歯科技工士会館）
7 月23日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
9 月10日	学術講演会（海遊館ホール）
9 月23日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
10月 8 日	女性歯科技工士セミナー（グランフロント大阪）
10月15日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
10月15日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
11月12日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
11月12日	実技研修会（新大阪歯科技工士専門学校）
12月 3 日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
12月10日	CAD/CAM 技工講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
1 月 7 日	新年互礼会（ホテル日航大阪）
2 月25日	フェミニンフォーラム（大阪ガスハグミュージアム）
3 月25日	「匠の技を見る」マナー講習会（新大阪歯科技工士専門学校）

第４回 社員総会

平成 29 年 6 月 10 日（土）18 時より大阪府歯科技工士会館において第 4 回社員総会を開催した。各支部から代議員 43 名が出席をし、野首議長、中川副議長の進行のもと総会が行われた。

先ず、清水会長から新体制で 2 年目に入り、今後の展望について挨拶があった。その後、第 1 号議案、平成 28 年度事業経過報告承認の件、第 2 号議案、平成 28 年度会計収支決算報告承認の件、第 3 号議案、会計管理および会費規程一部改正承認の件、第 4 号議案、役員報酬および諸費用弁償規程一部改正承認の件、第 5 号議案、共済互助規程一部改正承認の件の審議が行われ、各議案について採決の上、承認された。その後、各議事に関して活発な質問等が行われた。

質問事項は「社員総会の議案書を事前にホームページ等で閲覧について」、「Facebook の乗っ取りに関して原因と対応について」、「新執行部が掲げた活動方針について」、「歯科技工士免許の無資格者雇用問題について」および「労働環境の改善策について」について、要望事項として「大阪府歯科技工士会脱煙宣言」について行われた。最後に閉会の辞で終了した。



学術講演会

去る 9 月 10 日海遊館ホールにて講師に大阪府歯科技工士会の清水潤一会長と歯科医師の奥野幾久先生をお招きし大阪府歯科技工士会、中央南支部併催にて学術講演会が行われた。当日は会員 104 名、学生 10 名の合計 114 名と多くの参加があった。

前半には清水会長により、現状の技工士業界を踏まえ、今後歯科技工士に求められるものは何なのかを、また後半には奥野先生により歯科技工に役立つレントゲン CT の見方など我々技工士にとっても歯科従事者として必要な知識を題材に公演が行われた。

今後起こりうる業界の変化に対し我々歯科技工士も歯を作るだけでなく、まだまだ学ばなければならないことがあると痛感させられた、非常にためになるご講演であったと感じた。

北東支部　学術理事　森　朋智





女性歯科技工士セミナー

去る 10 月 8 日、大阪梅田のグランフロント大阪にて、日本歯科技工士会主催の「女性歯科技工士セミナー」が開催されました。勿論、男性の方の受講も OK でしたが、これだけ女性歯科技工士に特化した内容のセミナーは初めてでした。

内容も小難しいことではなく、今現在、実際に働いていらっしゃる方のお話。どうして歯科技工士になったのか、どのようにして現在の職場に辿り着いたのか、どのようにして結婚や出産という人生のターニングポイントを乗り越えてこられたのか等、学生さんや若い歯科技工士達の参考になったのではないでしょうか。





講師の徳永恵美子さん、藤王千春さん、山下茂子さん、お三方それぞれに歯科技工士としての人生を真剣に考えて、悩んで前に進んでこられたのだと胸が熱くなりました。

そして第二部の「経営者の皆様へ」では、これからの歯科技工業界で恐らく重要な働き手になるであろう女性歯科技工士をどのように雇用したらよいのか、のヒントが示されたように思います。今回のセミナーをきっかけに、今まで女性の雇用に尻込みしていた経営者の方々が、少しでも前向きに考えてくださると良いなと思いました。

まだまだ女性歯科技工士の立ち位置は微妙です。しかし実際にこの仕事を続けて、今も現場で働いている女性歯科技工士がいることも確かです。これまでの先輩方の努力を無駄にしないように、後輩の足を引っ張らないように、日々精進していかなければいけないなと切に感じた 1 日でした。

中央南支部　永間　千恵

匠の技を見る
～ ワイヤー屈曲講習会 ～

平成 29 年 10 月 15 日（日）新大阪歯科技工士専門学校にて、匠の技を見る～ワイヤー屈曲講習会～が開催されました。講師は、山野剛志氏、森直美氏、参加者は、会員 8 名、学生 7 名、未入会 6 名を含め、21 名で行いました。

今年 1 月にも開催したワイヤー屈曲ですが、好評につき 10 月にも開催することとなり、現在、義歯の臨床の現場ではコンビネーションクラスプの需要が多くを占めるということと、国家試験にも対応ということで、コンビネーションクラスプを重点的に行いました。

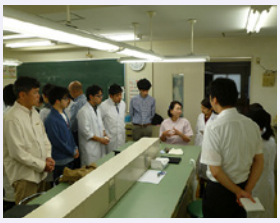
参加者で、4 年目の歯科技工士さんは現在、歯科技工所勤務で、次のステップでワイヤーを覚えたい、歯科医院勤務の技工士さんは、修理などのワイヤークラスプに対応するために参加したということで、日々の臨床技工のスキルアップのために、とても熱心に受講されていました。

また、学生さんは国家試験と就職を控えています。高齢化社会を踏まえ義歯の仕事をしたいという学生さんも数人いて、臨床の模型でのワイヤー屈曲に、一生懸命取り組んでいる様子でした。

今回は、3 時間の短い時間でしたが、参加した皆さんが「プライヤーを上手に使ってワイヤーの傷をつけずに素早く屈曲」することを、少しでも実践できたらと思います。

また、今回、歯科医師の先生の参加があり、歯科業界においても「匠の技を見る」の情報のますますの広がりを感じるとともに、ワイヤークラスプは、臨床の現場においても学校においても重要ということを、改めて認識し、講習会を今後も続けていきたいと思いました。







「500 号記念発行に想う」
元会長　速見　憲



1963 年（昭和 38 年）8 月、社団法人設立を記念して大歯技会報が発行され、16 年余を経て、1980 年（昭和 54 年）3 月に 100 号が発行されました。

その後、時の執行部により脈々と引き継がれ、2018 年 1 月号を持って記念すべき 500 号、誠に感慨深い思いで一杯です。広報は会員に役立つ情報源として不可欠であることは言うまでもありません。

想い起こせば、現在の A4 判冊子に移行する前は、タブロイド判で紙面が限られており、割り付け・校正で担当役員は勿論、私も関わった際は苦慮したことを覚えております。

大きな変化は「会報」から「広報」に変更になったことでした。第三種郵便の認可を得る為に必要で、（故）米倉正雄会長を中心に渉外活動の結果、願いが通り認可されました。クリアーすべき内容は、毎月発行、部数は 2,000 部以上、一般社会対象の記事の頁等が必要で、当初は郵便局本局のチェックがありました。歯科技工士（会）の認知、向上への一つの活動であり、当時は評価されていたと思います。

時は流れ、私が会長職を退く少し前に、冊子形態となり今に至っています。三種郵便認可も消滅となり、残念がる声も聞かれましたが、現在は会員の為の情報誌として、会員のニーズに合った内容となり、カラフルにもなり親しめる「広報」に移行していると感じます。

多様化する昨今ではありますが、情報発信は求められ 600 号、700 号……と大歯技広報は永遠に引き継がれることを願っています。

実技研修会

平成 29 年 11 月 12 日（日）13：00 ～ 16：00、新大阪歯科技工士専門学校にて大阪府歯科技工士会実技研修会が開催された。

「これからのデジタルデンティストリー」口腔内スキャナーの活用法の実技研修会を行なった。講師として前川理事、デンツプライシロナ株式会社から岩永浩幸先生をお招きして 2 部構成で講義をして頂いた。参加者は会員 10 名、学生 3 名、計 13 名であった。

始めに前川理事から現状の歯科技工についてのお話しを頂き CAD/CAM の重要性や現在の口腔内スキャナーは日本国内の歯科医院では 5%導入している事や今後、口腔内スキャナーの導入が進んでいく事など今後の歯科技工士に求められている事についてお話しを頂いた。

次に岩永浩幸先生から口腔内スキャナーの説明をして頂き実際に受講者の方々が口腔内スキャナーに触って体験して頂くなど楽しく学べた研修会になった。

そして、質問される方も多くこれからの歯科技工（CAD/CAM）の関心がすごく高まっていると改めて感じた。とても有意義な研修会であった。





2018 年 新年互礼会

新春恒例の新年互礼会が平成 30 年 1 月 7 日（日）、ホテル日航大阪の 5F 鶴の間において開催された。ご来賓には、国会･府会･市会議員をはじめ、大阪府･市の要職、大阪府･府下地域歯科医師会、学校関係、関係団体、関係各社の方々を合わせて 146 名を迎え、本会会員も 172 名が出席した。

先ず、西副会長より開会の辞が述べられ新年互礼会の幕が上がった。始めに清水会長より新年の挨拶があり、ご来賓への謝辞、昨年の活動報告、本会会員に向けて日頃の事業運営への多大な協力に関して感謝の意を述べられた。

ご来賓から、藤井睦子様（大阪府健康医療部部長）、市原聡様（大阪府歯科医師会副会長）、杉岡範明様（日本歯科技工士会会長）より、互礼会へのご祝辞と今年の抱負や今後の展望について頂戴した。

続いて、昨年度、齋藤勲様（北大阪）と小田純司様（中央北）が知事表彰を受賞され、記念品授与が行われた。

次に、大阪府歯科衛生士会の橋場佳子会長により乾杯の発声が行われ祝宴が始まった。会場の至るところで新年の挨拶や近況報告が交わされて新たな交流の輪も広がり、歓談で賑わう会場はますます熱気に包まれていた。

宴もたけなわになった頃、今年度、新たに仲間となった新入会員の皆さんに、壇上より 1 人ずつ挨拶をして頂いた。次に毎年恒例となったお楽しみ抽選会が女性部会の進行で行われた。本年度も次々と豪華景品が当選者に手渡された。最後に、岸本専務理事による閉会の辞があり、今年も盛会のうちに幕を閉じた。



2018 年度

平成30年度（2018）年表	
4 月 1 日	平成 30 年度診療報酬改定セミナー（大阪リバーサイドホテル）
5 月27日	新入会員歓迎会（グレースバリなんば道頓堀店）
6 月23日	第 5 回社員総会（大阪府歯科技工士会館）
6 月24日	全スタッフ合同会議（ドーンセンター）
7 月22日	ダーツ大会（パセラリゾーツなんば道頓堀店）
9 月 2 日	学術講演会（海遊館ホール）
10月14日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
11月23日	平成 30 年度歯科補てつ物製作過程等の情報提供推進事業研修会（エルおおさか）
12月 2 日	フェミニンフォーラム（TERRE-a-S）
1 月 6 日	新年互礼会（ホテル日航大阪）
3 月10日	労務対策セミナー（エルおおさか）

10年のあゆみ

第５回 社員総会



2018 年 6 月 23 日（土）18 時より大阪府歯科技工士会館において第 5 回社員総会を開催した。各支部より代議員 43 名が出席をし、中川議長、上原副議長の進行のもと総会が行われた。

先ず、清水会長から今執行部最後の社員総会、2 年間の感謝とこれまでの取り組みについて説明があった。その後、第 1 号議案　平成 29 年度事業経過報告承認の件、第 2 号議案　平成 29 年度会計収支決算報告承認の件、第 3 号議案　役員報酬及び諸費用弁償規程一部改正承認の件、第 5 号議案　任期満了に伴う外部監事選任の件、第 6 号議案　顧問の設置と選任の件、の審議が行われ、各議案で質疑を受け承認された。

最後に第 4 号議案　任期満了に伴う理事及び監事選出の件が上程され、選挙管理委員会報告を受け新役員が承認された。新役員による第 4 回理事会を開催し、新会長に清水潤一氏が再選した。

学術講演会






去る 9 月 2 日、海遊館ホールにて大阪府歯科技工士会の学術講演会が行われた。

講演の一部は、（株）松風の岩切信也様、デンツプライシロナ（株）黒長敬様、（株）ジーシー黒須儀人様より各社の製品紹介を基に『これからの CAD/CAM 技工』と言う演題でお話頂き二部は、『ベトナムの歯科技工 2018』として現在ベトナムでご活躍されている VU GIA DENTAL LABORATORY の外山宗明様をお招きし講演会が開催された。

当日は会員 58 名、学生 9 名、未入会員 1 名の合計 68 名の参加があった。

清水会長の挨拶から始まり、第一部の講演者である（株）松風の岩切信也様より『これからの CAD/CAM 技工～最新 CAD/CAM の基礎知識と応用～』、デンツプライシロナ（株）黒長敬様からは『セレックをもちいた CAD/CAM ソリューション』、（株）ジーシー黒須儀人様は『背景～歯科技工士がおかれている現状』で講演をいただいた。

第二部の外山宗明様からは、まず「ベトナムの正式な国名は、ベトナム社会主義共和国です！」から始まり、ベトナムの歯科の現状のお話では、ベトナム全体の医療レベル、ベトナムの教育、ベトナムの歯科医院・歯科技工所、ベトナムの歯科技工、歯科ボランティア事情と次々に写真や紹介ビデオを使い楽しく講和を聞かせて頂いた。

私達も普段知ることが出来ない海外の情報を得ることが出来、とても有意義な時間を過ごせたと思う。

平成 30 年度 歯科補てつ物制作過程等の情報提供推進事業研修会

去る 2018 年 11 月 23 日（金・祝）、エル・おおさかにて「平成 30 年度歯科補てつ物制作過程等の情報提供推進事業研修会」が開催されました。祝日にもかかわらず、233 名の方が参加されました。参加者には、歯科技工士会未入会の方や歯科医師、歯科衛生士、学校関係の方なども見られ、今回の事業への関心の高さがうかがえました。

当日は、大阪府歯科医師会副会長木田友信氏、日本歯科技工士会会長杉岡範明氏、前会長（現相談役）古橋博美氏、前々会長中西茂昭氏にもご臨席賜り、この研修会へ花を添えて頂きました。

研修会は 2 部構成となっており、1 部では厚労省委託事業について厚生労働省医政局歯科保健課課長田口円裕氏および日本歯科技工士会常務理事清水潤一様よる講演、2 部では診療報酬改定について厚生労働省保険局医療課課長補佐高田淳子氏による講演が行われました。

開催に先立ち、主催者である日技杉岡会長、開催地域代表として大阪府技清水会長、そして大阪府歯科医師会木田副会長にご挨拶を頂戴しました。杉岡会長は挨拶の中で「国民へ安心安全な補てつ物を提供し、チーム医療として患者からの信頼得るためにこの事業がある」と話され、木田副会長からは、「今回の事業の内容についてしっかりと把握し、歯科医師会に報告したい」とのお言葉を頂きました。

まず 1 部として、田口氏より厚労省委託事業の経緯についてご講演頂きました。初めに社会保障の状況と歯科保健医療を取り巻く状況を説明され、そこから、歯科においてのトレーサビリティについて話されました。トレーサビリティついては、過去に海外技工の問題で技工物の安全性について注目が集まった経緯があることや、国が行った“患者様へのアンケート調査”の結果で「技工物についての情報を医院に掲示するなどして提供してほしい」などの声が多く上がっていることからも必要であると考えられており、今回の事業の目的のひとつでもあると話されました。

また、委託事業の説明と併せて「歯科技工士の養成と確保」に対して国が行っている事業についてもご説明頂きました。現在、厚生労働科学研究では、歯科技工士に対する問題を取り上げているそうで、1 点は「歯科技工士業の多様な業務モデル関する研究」として、歯科技工士の業務の実態を様々な方から意見を集め、新しい業務モデルのマニュアルを作成する事を目的とした研究、もう 1 点は、「免許取得後の就業状況等に関する研究」として、比較的若い年代で離職する傾向がみられることについて正しく実態を調査し、国として具体的な対策方法を講じる事を目的とした研究をしており、これら研究の結果から、歯科技工所の業務体系の改善について補助金制度を導入できるように努めているとのことでした。

最後に田口氏は、これらの製作過程等の情報提供を行うこと、つまり“可視化”することは、医療に関する情報の提供へとつながり、患者には安心感の向上、歯科医師には患者からの信頼度の向上及び歯科技工業務への理解の向上、そして、歯科技工士には、医療に携わっていることへの実感から仕事に対するモチベーションの向上、ひいては歯科技工士という職種の認知度及び社会的地位の向上へと繋がるのではないかと語られ、講演を



終えました。

次に、清水氏より歯科技工士法の要点と今回の事業の具体的な内容についてご講演頂きました。まず初めに、行政が歯科技工士について事業を進める一方で、歯科技工士が自身に関わる法令についての認識が甘いことを指摘し、改めて再確認する必要があると話されました。併せて、「安心で安全な歯科補綴物を提供できていると言えますか」と問いかけられました。

講演では、歯科技工士法の要点をまとめ、具体的な例とともにわかりやすく解説されました。特に平成 25 年 4 月改訂の内容について詳しくお話しされ、業務指示書については、改訂前と改訂後の違いについて対比表を基に説明されました。また、開設届についてもお話しされ、大阪では約 1,200 件の開設届が受理されておりますが、その内 110 件ほどは連絡が取れない状況となっているそうです。この 110 件に関しては、移転もしくは廃業されたのかは定かではありませんが、それらの手続きがされていない件数であると言及されました。

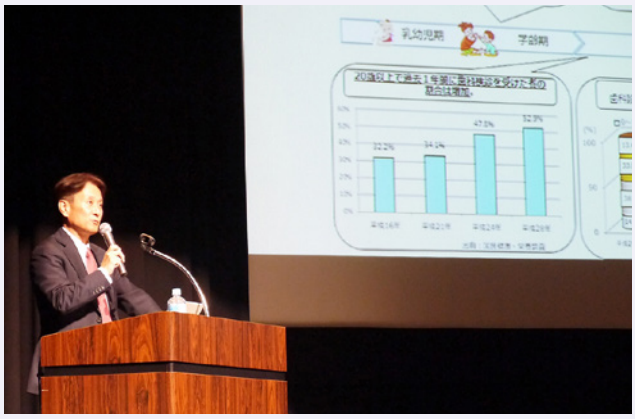
その後、今回の事業はどのようなことを行うのかを具体的に説明されました。続いて 2 部として、高田氏より診療報酬改訂についてご講演頂きました。まず、診療報酬がどのように決められているかを解説され、その後、医科を含めた診療報酬全体で、歯科は保険点数の増加率が高めであることをお話しされました。歯科技工士の製作技工に対する保険点数は改訂のたびに上げられることが多く、このことが歯科の保険点数の増加につながっているとの事でした。また、保険点数は決められた予算の中で運用されるため、何かを上げるためには、何かを下げる必要があることも説明されました。

次に、時代の流れとともに歯科治療の内容も変化していることから、「フレイル」への対応として口腔機能回復や検査にかかわる診療報酬の新設についてお話しされました。

最後に、製作技工と製作管理についてお話しされ、いわゆる「7 対 3」についての根拠や考え方、関係通知、また、過去に歯科技工士会から受けた「何に対しての 7 対 3 であるのか」という質問について図を基に解説され、講演が終了となりました。

今回の研修会では、厚労省委託事業の経緯と必要性が非常に良く解る内容となっており、委託事業を初めとし、行政が歯科技工士に対して様々な改善策を講じていることがうかがえ、とても励みになりました。また、このような事業が行われていることを少しでも多くの歯科技工士に知っていただき、歯科技工士という職種の“必要性”を歯科技工士が自ら示すことが重要であると感じました。診療報酬についても、新しい情報と共に行政の進める方向性などの情報も多く含まれており、歯科技工所の経営者の方々にとっては、今後の歯科技工所の方針を考えるにあたり、非常に参考になったと思われます。

普段は技術的な研修会を重要視しがちですが、このような「行政の動向」や「法令の解釈」についての研修会も重要であることを改めて認識することができました。







重光俊憲　本会副会長　ご逝去



去る１月 28 日早朝に重光副会長が肺がんのためお亡くなりになられました。享年 63 才。

あまりに突然の訃報に驚かれる方も多々おられると思います。去年末、体調を崩されて当初はご本人も風邪をひいたのかも、とおっしゃっていましたが、年明け早々から入院することになり、長い闘病生活をすることもなくこの世を旅立たれました。

昭和 61 年に大阪府技会員になられ、平成５年から府技役員を歴任され、今年亡くなられるまで実に 26 年間もの長きにわたって本会役員を務められ、その間支部再編や共済制度見直しに御尽力され、今の一般社団法人大阪府歯科技工士会の礎を築かれました。また後進の育成にも熱心で、会務を通じて若い理事の指導もして頂きました。

日技の社員総会や日技連盟の評議員会でいつも凛と前を見据えて、質問をされていた姿が瞼に浮かびます。

いつも仰っていた“保険の仕事で飯が食えるように！”を改めて胸に刻み、一日でも早く実現できるよう会務に精進して参ります。

本当にお疲れ様でした。そして、数々の事を教えていただきありがとうございました。

心からご冥福をお祈りいたします。合掌

中西茂昭氏　旭日小綬章受章祝賀会



永年にわたり歯科技工業務に精励され、また歯科医療業界の発展に尽力されたご功績により、平成 30 年秋の叙勲に際し歯科技工士保健衛生功労として旭日小綬章受章の栄に浴されました。

平成 31 年２月 10 日帝国ホテル大阪にてこの栄誉に対し、発起人代表である公益社団法人日本歯科技工士会会長杉岡範明氏と他７名の発起人が中心となり、当日は盛大に執り行われました。



労務対策セミナー

本年４月から「働き方改革関連法」が順次施行されます。歯科技工所等を含む中小企業においても 2020 年から施行されます。この事を踏まえて大阪府歯科技工士会技対部におきましても重要課題と考え、開設者対象の労務対策セミナーを去る３月 10 日（日）にエル大阪にて開催致しました。

当日は雨天にもかかわらず多くの会員の参加があり、講演Ⅰでは「社会保障制度、労働安全衛生及び労務管理の知識」と題して、公益社団法人日本歯科技工士会歯科技工士労務対策委員の鴨居浩平先生より、「働き方改革」の内容を解りやすく講演頂き、講演Ⅱでは「働き方改革にともなう補助金・助成金の活用方法」と題して商工会議所エキスパート専門家の松井秀一先生にご講演をいただきました。

出席された会員より、我々歯科技工業界で「働き方改革」実施すためには何をするべきかという質問に対し、清水会長より経済的諸問題の解決が必要であると考えるが、個々の歯科技工士においても適正な歯科技工料金を頂き歯科技工所の経済基盤の安定を図ることが「働き方改革」実施に最も重要であり、技工物の再製も適正料金を頂くようにと回答されました。

また、日本歯科技工士会山下副会長より日技においても歯科技工士の労務環境問題は重要課題と考え、開設者会員に危機感もって頂きたく適時に労務セミナーを開催する旨の説明がありました。

終わり西副会長の挨拶があり、補綴物製作日数の確保が労働時間短縮に関連し、「働き方改革」の実施にも繋がるとのお話しがあり、お二人の講師にお礼を述べられ閉会となりました。



2019 年度

令和元年度（2019）年表	
4月13,14日	近畿デンタルショー 2019 に出展
5 月26日	新入会員歓迎会（グレースバリなんば道頓堀店）
6 月22日	第 6 回社員総会（大阪府歯科技工士会館）
7 月21日	第 2 回ダーツ大会（パセラリゾーツなんば道頓堀店）
7 月28日	「匠の技を見る」（日本歯科学院）
9 月22日	第 1 回近畿デンタルサミット（AP 大阪駅前）
11月17日	「匠の技を見る」（大阪府歯科技工士会館）
12月 1 日	歯科技工士の働き方改革セミナー（AP 大阪駅前）
12月15日	フェミニンフォーラム（HUB 京阪京橋店）
1 月12日	新年互礼会（ホテル日航大阪）
2 月16日	国家試験会場で受験生にカイロを配り激励



新入会員歓迎会

2019年5月26日（日）、グレースバリなんば道頓堀店にて、「大阪府歯科技工士会新入会員歓迎会」が開催されました。本会行事として開催し、総勢117名の会員が集い盛会に行われました。

女性部会、青年部会からそれぞれ司会進行役を立て、歓迎会がスタートしました。

まず初めに、交流イベントとして「支部対抗ペーパータワーづくり」が行われました。「ペーパータワーづくり」とは、A4サイズの用紙30枚を使い、いかに高いタワーを作るかを競うもので、一切道具は使用せずに用紙の加工のみでタワーにします。“作戦タイム＋タワーづくり”を2セット行い、良い方の記録で競いました。

各支部ともミッション達成のために様々な試案や工夫、役割分担などを行い、すばらしい結束力を発揮していました。また、新入会員の方々も積極的に輪の中に入り、色々な意見を出し合っている姿が見られました。

2回の挑戦の結果、優勝は中央北支部、準優勝は北東支部という結果となり、優勝支部にはトロフィーを、準優勝支部には盾が贈呈されました。

イベント終了後にはお食事会が開催されました。ペーパータワーづくりで既に緊張もほぐれており、新入会員の方々を囲んで大変な盛り上がりを見せておりました。

新入会員の方々には、この新入会員歓迎会をきっかけに少しでも歯科技工士会に興味を持っていただき、様々な行事に参加して頂けると嬉しく思います。







第６回 社員総会

令和元年６月22日（土）18時より大阪府歯科技工士会館において第６回社員総会を開催した。

今年の１月に亡くなられた故重光俊憲副会長を偲び、２階会議室に献花台を設置し故人を偲んだ。

代議員48名中40名が出席し、中川議長（北大阪）、上原副議長（中央北）の進行で総会が行われた。

先ず、清水会長から挨拶があった。その後議事に入り、第１号議案　平成30年度事業経過報告承認の件、第２号議案　平成30年度会計収支決算報告承認の件、第３号議案　副会長重光俊憲氏の理事解任について、第４号議案　会員管理及び会費規程一部改正承認の件が上程され、質疑応答ののち各議案について承認された。

報告事項として、①2019年度事業計画及び予算の件、②G20における交通規制について、③近畿デンタルサミット2019について、④災害対策について、各担当理事より報告があり、閉会した。

匠の技を見る

令和元年７月28日（日）、日本歯科学院専門学校で「匠の技を見る矯正装置、ワイヤー屈曲講習会」が開催されました。今回の講師は北東支部、三嶋敬一氏、南大阪支部、南裕康氏のお二人で学生10名、会員２名、他府県会員１名の計13名の参加者でした。今回初めて日本歯科学院専門学校での開催でしたので、講師、参加者も新鮮な気分で講習に挑んでいる様でした。



参加された学生に話を聞くと、初めてワイヤーに触れた方だけでなく、２年生や３年生も、「授業で曲げていますが、よく手を切ったりして難しいです」と言っていました。最初は手つきもおぼつかない感じでしたが、徐々にプライヤーを持つ手つきも慣れていく感じがあり、勉強熱心な学生の質問にも講師の先生はわかりやすく教えている姿が印象的でした。

会員の方で、実際、クラスプを曲げている方は講師の先生にコツやポイントを聞き、知識や技を吸収されている様でした。

CAD/CAMなどの機械化が進む中、手作業の講習会にも熱心に参加する姿を目の当たりにすると、歯科技工士の本質はまだまだ変わらないと思いました。

前回に続き参加された学生さんも数名見られたので、着々と「匠の技を見る」が定着しているのが感じられました。

歯科技工士の働き方改革セミナー

12月1日（日）、AP大阪駅梅田1丁目にて大阪府歯科技工士会の学術講演会「歯科技工士の働き方改革セミナー」が行われました。今回は、技工技術に関する学術ではなく、歯科技工士として働くうえでの法律や制度について学ぶ講演会として開催しました。

講演は2部行われ、1部では「大阪府技の今後と業界の展望について」と題し、清水会長（日技常務理事）に、2部では「1.若い歯科技工士と女性歯科技工士の雇用安定と活躍推進のために　2.労務管理と関係法規について勤務者と経営者が共に理解するために」と題し、山下監事（日技副会長）にご講演頂きました。

1部では、行政と連携した日技の取り組みについての内容や会員分布等から見る大阪府技の立ち位置などについてご説明頂きました。また、保険診療点数と歯科技工料金についての考え方など、厚労省の方が実際に使われているスライドをお借りしてご講演頂き、行政の考えも窺い知ることができました。

2部では、昨年施行された「働き方改革関連法」について、法の解釈と共に歯科技工所としてのどのように解釈するのかも併せてご説明頂きました。また、実際に起きた事例や女性を雇用する経営者としてのお話もいただき、法の解釈をイメージしやすかったことも印象的でした。歯科技工所にとって受け入れがたい内容も多々ありますが、働き方改革関連法はすべての企業が対象であり、歯科技工所だけが免除されるものではないことを強調されていました。

参加されている方々は、経営者の方だけではなく、勤務者の方や女性の方も多くみられ、「働き方改革」への関心の高さが伺えました。働き方改革関連法の中には、企業の規模により施工期日が異なるものもあるため、まだ施行されていないものもありますが、このような機会に情報を集め、事前に対策を講じることが重要であり、講演会の意義を強く感じました。







フェミニンフォーラム
～ いつでも健康で豊かな毎日を ～

令和元年 12 月 15 日（日）、京橋にて女性会員限定イベント「フェミニンフォーラム」が開催されました。

“いつでも健康で豊かな毎日を”をテーマに健康体操、クリスマスリース作り、クリスマスパーティーが行われました。フェミニンフォーラムは、お子様連れでも気軽に参加できるように企画されており、女性会員 36 名、お子様 8 名が参加し、賑やかな雰囲気での開催となりました。

健康体操では、組織部員がお手本となり、技工室で座ったままでもできる体操を参加者全員で実践しました。体がポカポカ温まるほど効果抜群で「冬の冷え対策にもいいかも」というような声も上がっていました。クリスマスリース作りでは、皆さん“さすがは技工士”といった手つきで、器用に作られているのが印象的でした。ちょうどクリスマスシーズンでもあり、皆さんご自宅や職場に飾られるとの事でした。最後にクリスマスパーティーとしてお食事会が行われ、皆さん和気あいあいと話しに花を咲かせていました。

最後に山下監事（日技副会長）よりご挨拶を頂き、閉会となりました。

ご挨拶の中で山下氏は、2019 年 3 月に歯科技工士学校を卒業し国家試験に合格した 798 名の内、53％が女性であり、今後、歯科技工士のイメージは、「男性の職業」から「女性が活躍できる職業」へと変化していくと話され、職場環境も女性が働きやすい環境への変化が必要であり、女性歯科技工士が集うこのような会の重要性を語られました。

大阪府技には、女性会員のみで構成される女性部会があります。これからの女性歯科技工士の働き方についても、女性部会を通じて発信できればと思います。







森岡寛　元会長　ご逝去



大阪府歯科技工士会第 20 代、21 代会長森岡寛氏が令和 2 年 1 月 9 日逝去された。

平成 5 年 4 月「みんなで考える技工士会」を提唱して会長に就任。

「内政の充実」「大臣告示料金の定着推進」「組織の強化」「事務局の合理化」「会計の明朗化」などを基本方針とし、支部訪問、在阪技工士学校との懇談会、初めて新卒者の“卒後即入会”を実施、パソコン導入、第 1 回全スタッフ合同会議を開催。特に任期中に発生した阪神淡路大震災では被災会員の支援活動に尽力された。

2020 年 新年互礼会

新春恒例の新年互礼会が 2020 年 1 月 12 日（日）、ホテル日航大阪にて開催されました。ご来賓には、国会・府会・市会議員をはじめ、大阪府の要職、大阪府・府下地域歯科医師会、学校関係、関係団体、関係各社の方々を合わせて 125 名を迎え、本会会員も 171 名が出席しました。

先ず、本多専務理事より開会の辞が述べられ、2020 年新年互礼会の幕が上がりました。はじめに清水会長より新年のあいさつがあり、近年、口腔内の健康は全身の健康に関わることが学界でも証明され、歯科業界にとって追い風となっているが、未だ、歯科技工士が正当な評価を受けていないことについて言及され、「日本の保険制度の中にあって、歯科医療に携わる歯科技工士に正当な対価が届くようなシステム作りを緊急にお願いしたい。」とご参集の国会議員の方々に語り掛けました。

その後、ご来賓から、福島俊也様（大阪府医療監）、片岡宏之様（大阪府歯科医師会副会長）、杉岡範明様（日本歯科技工士会会長）大塚高司様（自民党大阪府支部連合会会長）にご挨拶をしていただきました。

杉岡日技会長はあいさつで歯科技工士の認知度について話され、歯科技工士の就業場所として歯科技工所が 70％以上を占めており、「歯科技工士はますます“姿の見えない医療従事者”と化してしまい、このままでは患者さんが歯科技工士の存在を知らないまま治療を終えるような状況になってしまう」と言及されました。人生 100 年時代となった今、誰もが長く元気に活躍できる社会づくりの中で歯科医療は欠かせないものとなっており、その中で歯科技工士が医療従事者として取り残されることがないよう、歯科技工士の在り方について示し、歯科技工士を“姿の見える医療従事者”にしなければならないと話されました。最後に「必要なのは自らが変えようとする力であり、この力を結集し、皆で歯科技工士の未来を明るいものへして行かなければならない」と集まった会員の皆様に語り掛けました。

続いて、平成 30 年度大阪府知事表彰を受けられた小谷和弘氏と山下茂子氏に記念品の贈呈が行われました。

乾杯のご発声を橋場佳子大阪府歯科衛生士会会長より頂き、祝宴が始まりました。祝宴では、新たに仲間となった新入会員の皆さんの紹介やマジックショー、読売中高生新聞の記事に協力してくださった会員さんの紹介、恒例となったお楽しみ抽選会など催され、大変な盛り上がりとなりました。

最後に、小谷副会長より閉会の辞があり、盛会のうちに幕を閉じました。











2020 年度

令和２年度（2020）年表	
４月29日	全会員にマスクを配布する
６月13日	第７回社員総会（大阪府歯科技工士会館）
６月27日	全スタッフ合同会議（WEB 会議）
９月４日	防災訓練の実施
９月27日	診療報酬改定セミナー（オンラインセミナー）
10月25日	新入会員説明会（WEB 開催）
11月15日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
12月13日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
１月31日	歯科医師によるセミナー（オンラインセミナー）
２月14日	技対労務セミナー（オンラインセミナー）
２月28日	国家試験会場で受験生にカイロを配り激励

10年のあゆみ

第７回 社員総会

令和２年６月13日（土）17時より大阪府歯科技工士会館にて第７回社員総会を開催した。コロナ渦ということもあり、初めての電磁的方法による総会となった。

資格審査委員会並びに議事運営委員会は事前に書面会議で行い、本会役員、監事、選挙管理委員長、中川議長、上原副議長が本会参集、中川議長の進行で、45名の代議員とのウェブ総会が行われた。



先ず、清水会長より今執行部最後の社員総会、2年間の感謝とこれまでの取り組みについて説明があった。

その後議案の審議に入った。

第１号議案　令和元年度事業経過報告承認の件
第２号議案　①令和元年度会計収支決算報告承認の件
　　②監査報告
　　③財務委員会報告
第３号議案　会費管理及び会費規定一部改正承認の件
第４号議案　委員会規定一部改正承認の件
第６号議案　任期満了に伴う外部監事選出の件
第７号議案　顧問設置と選任の件

の審議が行われ、各議案で質疑を受け承認された。

最後に第５号議案任期満了に伴う理事及び監事選出の件が上程され、選挙管理委員会報告を受け新役員、監事が承認された。新役員による第４回理事会を開催し、新会長に清水潤一氏が再選した。

大阪府歯科技工士会　防災訓練

去る９月４日（金）、大阪府が実施する「大阪880万人訓練」に合わせて「大阪府歯科技工士会防災訓練」を実施いたしました。

大阪府歯科技工士会では、2018年６月18日の大阪府北部地震の経験から、大阪府技として災害に対する備えが必要であることを痛感し、2018年９月「災害対策プロジェクトチーム（のちの災害対策諮問部会）」を発足させました。約２年に亘り、災害に対する様々な備えを検討し、今回の防災訓練の実施に至りました。

防災訓練では「安否確認の実施」を行い、会員の皆様の災害対策への意識向上を図るとともに、災害時の備えについて確認する機会としていただきました。また、執行部では、「災害発生時の執行部の行動」を確認し、災害時に迅速に行動ができるよう訓練しました。訓練結果を災害対策諮問部会で評価し、次回の防災訓練の際にはより質の良い訓練になるよう努めています。

今回、「大阪880万人訓練」に合わせ、大阪府技として防災に関する行事が行えたことは、非常に良い取り組みとなりました。下表に各支部の実施状況をまとめておりますが、まずは、当面の課題を『安否確認用LINEへの登録者数の増加』とし、学術講演会に災害の備えについての説明会を組み込むなど、会員への周知を図りたいと思います。

全会員が安否確認用LINEへの登録をされ、防災訓練を通じて災害対策への意識を高めることを目標に、今後も防災訓練を継続して行って参ります。

災害はいつ発生するかわかりません。今回、登録が間に合わず安否確認訓練に参加できなかった方は、“次回までに”ではなく“今すぐ”ご登録をお願い致します。

診療報酬改定セミナー

去る 9 月 27 日（日）、「診療報酬改定セミナー」が行われました。

コロナ禍において様々な行事を中止せざる負えない中、診療報酬において非常に重要な内容の改定が行われたため、急遽 WEB での開催となりました。

講演は「CAD/CAM 冠における留意事項の追加に伴う適用部位の拡大について」と題し、令和 2 年 9 月 1 日より施行された CAD/CAM 冠の前歯保険適用についての詳細を清水会長よりご講演頂きました。

今回、大阪府歯科技工士会にとって初めての WEB セミナーということもあり、参加者がどの程度集まるのか、音声や映像など不具合無く配信できるのかなど、様々な不安もありましたが、多くの方にご参加いただき、また、配信も不具合なく無事に開催することができました。

新型コロナウイルスがきっかけとなり、WEB セミナーを開催することとなりましたが、時代の風潮やネットが当たり前とされる社会を見ると、今後の学術講演会の在り方として必要なスタイルであると改めて感じました。WEB セミナーに関しては、日技生涯研修の認定や聴覚障害のある方への対応など、様々な課題はありますが、ひとつひとつ解決し、今まで以上に必要とされる歯科技工士会を目指したいと思います。



匠の技を見る

令和 2 年 12 月 13 日（日）、「匠の技を見る」WEB セミナー（Zoom）として開催いたしました。

「卒後 3 年以内に覚えておきたい、臨床的クラウン WAXUP とシェードテイキング」と題し、当会中央南支部所属の小出俊介氏が講師として登壇されました。

WEB セミナーにもかかわらず 41 名の方が参加してくださり、盛会に行えることができました。

今回は若手技工士向けとしてより実践的な内容となっており、クラウン WAXUP の説明では、WAXUP をしている手元の動画を予め用意し、動画を流しながら解説していただくなど、WEB で見ていてもより分かりやすくなるように工夫をしてくださいました。シェードガイドで重要となる「撮るカメラの性能により色が変わる」ことなどの貴重なお話もして頂き、参加者からの質問にも一つひとつ丁寧に分かりやすく答えてくださいました。

また、実践的な内容だけではなく、このような勉強会を受ける際の“姿勢”についてもお話しいただき、テクニカル以外の面でも非常に勉強になったと思います。

今回も非常に多くの方にご参加いただき、コロナ禍においても皆さんの歯科技工に対する意識の高さを強く感じました。





歯科医師によるオンラインセミナー

令和３年１月31日、大阪府歯科技工士会館にて「歯科医師によるオンラインセミナー」を開催いたしました。

講師には、歯科医師の木原敏裕先生をお招きし、「歯科治療を成功させるために歯科医師と歯科技工士で考えるべきこと」という演題でご講演頂きました。

CAD/CAM や口腔内スキャンの導入でデジタル化が進み、歯科技工も手作業の技工からデジタルの技工に代わりつつありますが、講演の中でプロフェッショナルを持って歯科治療に取り組む事の大切さや、歯科医師と歯科技工士の連携の重要性が今以上に必要になる事など、今までの手作業の技工がこれからも役に立つ事を再確認でき、未来に希望を持てる講演内容でした。また、木原先生の歯科治療に対する信念をお聞きし、「歯科技工物は単なる物では無く、人の体の一部として機能する臓器である」と改めて気付かされると同時に、歯科技工物に対する責任を感じ、襟を正す思いになりました。

セミナーを視聴した方々からは、「講演の内容が良かった」「大変ためになった」「これから技工士としてどうしたら良いのかが分かった」などの意見を頂戴し、盛会に行われたことを実感しました。

今回、コロナ対策としてのオンラインセミナーでしたが、木原先生のご講演ということもあり、大阪府技以外の歯科技工士会に所属する方も多くご参加頂きました。これもまたオンラインセミナーの魅力のひとつであると気付くことができ、今後のオンラインの活用について考える良いきっかけとなりました。

大阪府技では、コロナ禍においても会員の皆様に今まで通りのサービスが提供できるよう、オンラインを活用したイベントを企画しています。また、会場を使ったイベントであっても、検温や消毒、マスクの着用とパーテーションの設置、大阪コロナ追跡システム登録の義務化など、徹底した感染予防対策を実施し、安心してご参加いただけるよう努めてまいります。

今後とも、皆様のご参加を宜しくお願い致します。　　学術理事　榎本 俊輔





技対労務セミナー

２月 14 日（日）午前 10 時より大阪府歯科技工士会 3F に於いて WEB による労務セミナーが開催されました。

清水会長の挨拶で始まり、特定社会保険労務士の沼田博子先生による講演が始まりました。労働者や事業主などを対象に、「安心」して「働く」ための労使をつなぐルールである「経営者を守る公的支援制度」労働保険についてなど、働き方改革、雇用における注意等基本的な内容でとても分かりやすく解説していただきました。最後に質疑応答を含めて１時間 15 分のセミナーでした。

WEB 参加者が 33 名、現場スタッフを含め 40 名弱の参加となりましたが、沼田先生の講演では第１回目となり、すごくわかりやすい講演でした。

技対部としましてはもう少し掘り下げて深い内容にしていきたいと思っています。第２回、第３回と行っていきたいと思いますので、事業主の会員の方、雇用をしておられる会員の方には是非とも視聴、参加をお願いします。





国家試験大阪会場にて応援
～ カイロ配り ～

去る２月 28 日（日）、令和２年度歯科技工士国家試験が行われました。

大阪府歯科技工士会では、国家試験大阪会場（大阪歯科大学樟葉キャンパス）入口にて、試験に向かう受験生の皆さんに応援メッセージカード付きのカイロとマスクを配布しました。

コロナ感染予防としてマスクや手袋を着用し、積極的な声がけは行わずにプラカードでの呼びかけとなりましたが、皆さん笑顔で受け取ってくださいました。我々の気持ちが伝わり、少しでも緊張が和らいでいただければ幸いです。

試験当日に受験生の皆さんに大阪府歯科技工士会として応援できた事を嬉しく思います。

受験生の皆さん、お疲れ様でした。









10年のあゆみ

2021年度

令和３年度（2021）年表

4月25日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
5月23日	新入会員説明会（WEB 開催）
6月12日	第８回社員総会（大阪府歯科技工士会館）
6月13日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
7月11日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
7月22,23,24日	新型コロナワクチン職域接種　１回目（ヴィアーレ大阪）
8月8日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
8月22,23,24日	新型コロナワクチン職域接種　２回目（ヴィアーレ大阪）
9月3日	防災訓練の実施
9月5日	フェミニンフォーラム（WEB 開催）
9月12日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
10月3日	日技指定研修　顎口腔機能学（オンラインセミナー）
11月14日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
12月12日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
2月1日	オンラインウォーキングコンペティション（2 月 28 日まで）
2月13日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
2月20日	国家試験会場で受験生にカイロを配り激励
3月6日	技対労務セミナー（オンラインセミナー）
3月13日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
3月26日	新型コロナワクチン職域接種３回目（ヴィアーレ大阪）27 日、28 日
3月27日	学術講演会（ハイブリッド型セミナー）

大歯技広報をリニューアル

「社団法人としての節度を保ちつつ、会員に興味を持っていただける広報」を基本方針とし、機関誌「大歯技広報」をリニューアルしました。

令和３年２月号（第 525 号）


令和3年2月号　大歯技広報　第525号 (1)

大歯技広報

発行所
一般社団法人 大阪府歯科技工士会
大阪市住吉区苅田7丁目14-7
TEL 06－6699－4400
FAX 06－6697－4100
発行者 清水 潤一
編集者 山本 吉保
URL https://www.daishigi.org/
mail:kanri@daishigi.org
発行予定日：4月・5月・6月・8月
10月・12月・1月・2月

令和3年
年頭所感

大阪府知事　吉村　洋文

新年明けましておめでとうございます。
一般社団法人大阪府歯科技工士会の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

貴会におかれましては、日頃より歯科補綴物の品質の保持増進や歯科技工技術の向上を図る研修のみならず、高校生に向けた歯科技工士の魅力発信を行うなど次世代を担う人材確保にも積力的に取り組んでおられますことに、改めて敬意と感謝の意を表します。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大が世界の社会・経済に深刻な影響を与えた１年でした。
本府では、この未曽有の危機から府民の命と暮らし、産業と雇用を守るため、かつてない規模の緊急対策を実施し、府民・事業者の皆様のご理解、ご協力のもと、感染拡大の防止と経済活動の両立に取り組みました。
亡くなられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、療養中の皆様の一日も早い回復をお祈りいたします。また、医療従事者をはじめ、福祉など私たちの暮らしを支えていただいている方々に心から感謝申し上げます。

未だ新型コロナウイルスは予断を許さない状況です。今年もウィズコロナにおける感染拡大防止対策に万全を期すとともに、ポストコロナを見据え、大阪の再生・成長を図るため、大阪府市が一体となって新たな成長戦略による取組みを強力に推進してまいります。

コロナ禍にあって、いのちとの向き合い方が世界中で問われている中、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催する大阪・関西万博は、新型コロナウイルス感染症終息後の新たな未来を切り拓くシンボルです。国、大阪府市、経済界が一体となり、万博の成功に向けて着実に準備を進めてまいりますので、引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。

結びに、貴会の益々のご発展と、本年が皆様にとりまして、すばらしい年となりますことを心よりお祈りいたします。

令和３年 3.4 月合併号（第 526 号）



10年のあゆみ

新入会員説明会

令和３年５月23日（日）、新入会員説明会がオンラインで開催されました。

昨年同様、今年もコロナウイルスの影響を受けオンラインでも開催となりましたが、開催側も参加者側もオンラインに慣れてきたこともあり、比較的スムーズに行うことができました。

まず、清水会長より「技工業界のカタチと若い歯科技工士が学ぶべきこと」をテーマに講演して頂きました。「医科と歯科との関係性」「保険点数は誰がどうやって決めているのか」「7：3 告示とは」「適正な技工料金とは」「業界を良くし、個々が働きやすい業界にしていくには」そして「歯科技工士会の必要性とは」など、歯科技工士として知っておくべきこと、知っておいてほしいことがまとめられており、新入会員はもちろん、歯科技工士として働くすべての方に聞いていただきたい内容となっておりました。





続いて、大阪府下５支部の支部長がそれぞれ登壇され、各支部の紹介をしていただきました。

本来は、新入会員歓迎会や各支部で行われる行事に参加し、支部長や支部の役員の方々にお会いして支部を知ることになるのですが、現状、そのようなことができる状況ではありません。そこで、まずは新入会員の皆さまに自身の所属する支部の支部長を知って頂き、歯科技工士会や支部を身近に感じていただきたいと思います。

新入会員の多くが臨床に出て間もない方々だと思います。臨床で悩んで立ち止まった時には、ぜひ歯科技工士会を頼りにしていただきたいです。今回の新入会員説明会がひとつの懸け橋となれば幸いです。

第８回 社員総会

2021 年６月 12 日（土）18 時より第８回社員総会を開催した。新型コロナウイルスの感染症拡大の為、今年度も電磁的方法による WEB 総会となった。

資格審査委員会並びに議事運営委員会を書面会議で行い、本会四役、監事が本会参集、中川議長、上原副議長の進行で、本会理事・45 名の代議員とのウエブ会議が行われた。

まず清水会長より、大阪府歯科技工士会の活動に対し、会員皆様方のご支援ご協力に感謝を申され、大歯技広報の重要性等、会員のメリットについて話され、重要事項や緊急時にも対応して頂けるよう府技の公式ライン等の登録をお願いされた。その後下記議案の審議が行われた。

第１号議案　令和２年度事業経過報告承認の件
第２号議案　①令和２年度会計収支決算報告承認の件
　　②監査報告
　　③財務委員会報告
第３号議案　会館整備基金廃止とそれに伴う一般会計への移行繰入承認の件
第４号議案　委員会規定の一部改正承認の件

質疑応答のあと上記議案全て承認された。

報告事項で、令和３年度事業計画及び予算の報告をし、閉会した。



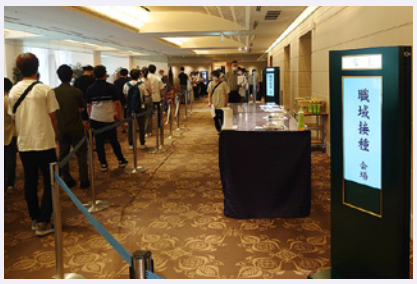
「新型コロナワクチン職域接種１回目」実施

令和３年７月 22 日～ 24 日、新型コロンワクチン職域接種１回目が実施されました。

緊急事態宣言が発令された状態での実施という事もあり、前日には会場スタッフ、担当医、看護師も参加し、受付から問診、ワクチン接種、待機場所まで、密の状態が発生しないよう様々なシミュレーションを行い、接種当日を迎えました。

時間帯によっては多少の混雑は見られましたが、各部門で受け入れ人数を調節するなどの対応や来場者の方々の協力もあり、密になるほどの事態を避けることができました。

危惧していた副反応が出た方への救急対応についても、医師、看護師の方々の的確な対応により、事なきを得ることができました。日常的に人命にかかわっている方々の判断力、行動力は本当に素晴らしく思いました。また、それと同時に、１ヶ月後の職域接種２回目では、我々のできることを一つひとつ確実に行い、医師、看護師の方々が職務に集中できるようにする必要があると強く感じました。






フェミニンフォーラム ～ 女性歯科技工士のためのセブンズルール ～



コロナ禍の９月５日（日）、WEB セミナー「女性歯科技工士のためのセブンズルール」に参加した。

セブンズルールというお題を見て、私のセブンズルールは？と考えてみた。

長い長い歯科技工人生を振り返ってみると、そんな立派なものではないけれど、節目節目で決断を下す時、何かしらの基準があったように思う。それがセブンズルールみたいなものかな？などと思いつつ受講した。

今回は３人の女性歯科技工士の方々のお話を聞くことが出来た。御三方とも、現役バリバリの歯科技工士。技工士人生も様々。しかし共通しているのは、しっかりとご自分の仕事や人生に向き合っているということ。なので、節目においての選択がブレていないと感じた。人生は長いので、思った様に進まない事もあるだろうが『自分自身が何をどうしたいのか』ということをちゃんと判っていれば、たとえ間違ってしまっても、修正できるように思えた。

皆さん、私より随分若いのに、本当にしっかりとした考えをお持ちだなと感心しながら、自分の不甲斐なさを反省した時間だった。私ももう一度、自分のセブンズルールを考えてみようと思う。

今回のセミナーは女性歯科技工士に向けたものとして、若い歯科技工士の方々やこれから歯科技工士を目指そうとしている方たちの参考になるだろうと思う。そして、このようなセミナーがもっと盛んになって色々なお話を聞く機会が増えると良いなと思う。




中央南支部
永間　千恵

「顎口腔機能学」をわかりやすく！

去る 10 月 3 日（日）に大阪府歯科技工士会会館にて、ハイブリッド形式による日技指定研修「顎口腔機能学」の講演会が開催されました。

「顎口腔機能学」は 1992 年から教育科目に加えられており、履修していない歯科技工士のために日技指定研修として実施することにより、国民に質の高い歯科医療を提供することが目的であります。

講師には小出馨先生（日本歯科大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学主任教授）と森野隆先生（日本歯科技工士会副会長）を御迎えして講演を頂きました。

午前 10 時より榎本学術理事の進行で始まり、大阪府歯科技工士会清水会長の開会の挨拶に続き、小出先生の講演が始まり、医療の中でも歯科だけが介入できる咬合治療は顎口腔系のみならず全身の健康・国民の生活の質・健康寿命にまで影響を及ぼす重要な要素であり、これからの歯科医師と歯科技工士には、専門領域である咬合と顎関節に関する十分な理解と治療内容の更なる高度化が強く求められているとお話されました。森野先生の講演では、臨床での咬合器の調節機能（矢状顆路・側方顆路・平衡側側方顆路・作業側側方顆路）についてデモを交えてお話されました。

最後に閉会の挨拶があり、ご講演頂いた小出先生・森野先生にお礼申し上げ午後 1 時 30 分に終了致しました。

会員皆様の多数参加ありがとうございました。









「新型コロナワクチン職域接種３回目」実施

令和４年３月26日～28日、新型コロンワクチン職域接種３回目が実施されました。

１回目･2回目（以下、「初回接種」という）と同様に、ヴィアーレ大阪に会場を設け、徹底した感染予防策を講じて行われました。

「大阪府のすべての歯科医療関係者をコロナ感染症から守ります」というスローガンのもと、会員をはじめ、会員のご家族および職場の同僚、歯科技工士学校学生や学校関係者、また、歯科商店やメーカーの関係者まで、あらゆる歯科にかかわる方々を接種対象者として募集を行い、約1,500名の申込みがありました。初回接種を受けた人数よりも申し込みは少なくなりましたが、言い換えれば、申し込みをされていない方は別の医療機関で３回目接種を受けることが出来ているという事であり、皆さんがきちんとワクチン接種を受けられている現状はとても喜ばしいことであると感じました。

３回目職域接種は、初回接種と同様に３日間行い、医師、看護師、薬剤師、歯技協西支部、大阪府技の会員と総勢75名のスタッフで実施しました。医師、看護師、薬剤師の方々が業務に集中できるよう、会場内外の誘導や受付、予診票チェックなどの会場スタッフ業務について何度もシミュレーションを重ね、万全の準備で接種日を迎えました。

接種当日の朝、医師らによる打ち合わせの様子を伺っていると、この職域接種が医療行為であり、この場所を医療機関として機能させることの責任を改めて感じました。初日は予約数も多く、多少の混雑は見られたものの、来場者の皆さんのご協力もあり、とてもスムーズに実施することが出来ました。

来場者には３回目のワクチン接種ではありましたが、やはり緊張感や恐怖心の強い方もおられ、そのような方には接種後も付き添い緊張を和らげるとともに、待機スペースのスタッフにお願するなどの連携を取り、体調不良者の早期発見と早期対応に心がけました。また、初回接種の経験から、救護室の設置にも工夫を凝らし、緊急の事態にも迅速に対応できるよう準備していたこともあり、我々スタッフも緊張しすぎることなく冷静に業務を行えていたように感じました。

３月26日には、参院議員の石川ひろたか氏、熊野せいし氏、大阪府議会の大山明彦氏が視察に訪れ、激励の言葉を頂きました。熊野氏には初回接種の際に会場確保の後押しをして頂いた経緯もあり、我々歯科技工士に対して、親身になってご尽力くださる姿勢には感謝しかありません。

３日間とも順調に行われ、大きな問題もなく無事に終えられることが出来ました。接種概要でもある通り、政府の方針転換に半ば振り回されながらも柔軟かつ迅速に対応し、他の企業や団体が３回目職域接種を辞退する状況においても滞りなく実施することが出来ました。会場での医療スタッフや会場スタッフのお掛けであることはもちろんですが、会長と事務局をはじめとする運営スタッフの長期にわたる準備期間があってこそだと、このレポートを書きなが再認識させられました。

初回接種同様、３回目のワクチン接種を終えられた方には、大阪府技から「接種済バッチ」を配布しました。この接種済みバッチは、一般社会に向けたメッセージが含まれており、歯科医療機関に出入りするときにこのバッチを付けていただく事により歯科医師、歯科衛生士はもちろんのこと、患者さんにも安心して治療を受けていただけることを目的としています。











2022 年度

令和 4 年度（2022）年表

4 月10日	令和 4 年度診療報酬改定講習会（オンラインセミナー）
4 月10日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
5 月 8 日	「匠の技を見る」（オンラインセミナー）
5 月29日	インボイス制度セミナー（ハイブリッド型セミナー）
6 月11日	第 9 回社員総会（エルおおさか）
6 月26日	全スタッフ合同会議（ドーンセンター）
7 月10日	新入会員説明会（ドーンセンター）
9 月 2 日	防災訓練の実施
9 月19日	歯科技工士法施行規則の一部改正に伴う講習会（ヴィアーレ大阪）
10月23日	ハイキング＆バーベキュー大会（信太山キャンプ場）
12月25日	学術講演会（ハイブリッド型セミナー）
1 月 8 日	新年互礼会を新年会に変更して開催（ホテル日航大阪）
2 月 1 日	オンラインウォーキングコンペティション（2 月 28 日まで）
2 月 5 日	インボイス制度セミナー（オンラインセミナー）
2 月19日	国家試験会場で受験生にカイロを配り激励
3 月 5 日	「匠の技を見る」（新大阪歯科技工士専門学校）
3 月12日	労務対策セミナー（オンラインセミナー）

令和４年度 診療報酬改定講習会 ～『HPKI 電子証明書』についてのセミナー併催 ～

令和４年４月 10 日（日）大阪府歯科技工士会会館において「令和４年４月１日実施の診療報酬改定内容等について」の講習会が開催されました。

第１部は日技・森野副会長の挨拶で始まり、診療報酬改定の資料に基づき日技常務理事・大西清支先生による解説がありました。

各分野においても詳しく説明され、前半・後半と休憩をはさみ、長時間に渡って説明して頂き、最後に質疑応答時には多数の質問があり時間を超過するほどでした。

ハイブリット型で開催しましたが、約 90 名の参加がありました。２年に１度の診療報酬改定ですが、技工料金に反映して頂きたいと思います。



第２部講習会として日技・山下副会長による「HPKI 電子証明書」について講演をしていただきました。

HPKI の特徴として『厚生労働省が所轄する医師を始めとする 26 個の医療分野の国家資格を証明することができる仕組みを持っていること』となっていますが、そのなかに歯科技工士が入っているということです。想定される活用として・身分証明書としての利用・採用時の資格確認・災害時の資格確認・JAL DOCTOR 登録等があります。

これからの課題として「届出に必要な書類、手続きが多い」「簡素化、オンライン化が検討されている」「病院、企業での一括申請ができない」「普及が伸びてない」「厚労省、業界団体含めた普及活動の強化が必要」などの問題点があるのですが、資格申請を出来るだけしていただきたいと思います。

長時間に渡り講演して頂いた先生方ありがとうございました。そして、参加して頂いた会員の皆様ありがとうございました。

第９回 社員総会

令和４年６月 11 日（土）、エル・おおさかに於いて、第９回社員総会が開催されました。

過去２回は、新型コロナウイルスの影響を受けて電磁的な方法による総会（WEB 総会）となりましたが、今回は少し広めの会場を用いて、通常通りの開催方法にて行われました。

同日、16 時 30 分より、資格審査委員会、議事運営委員会が開催され、その後、17 時より代議員 37 名出席のもと、中川議長、上原副議長の進行にて総会が行われました。

まず、前川会長による挨拶があり（挨拶の内容は、大歯技広報 7,8 月合併号（第 539 号）に掲載）、その後下記議案の審議が行われました。

第１号議案　令和３年度事業経過報告承認の件
第２号議案　①令和３年度会計収支決算報告承認の件
　　②監査報告
　　③財務委員会報告
第３号議案　任期満了に伴う理事及び監事選出の件
第４号議案　任期満了に伴う外部監事選出の件
第５号議案　顧問の設置と選任の件

第 1. 2. 4. 5 号議案について質疑を受けた後、全てにおいて承認されました。

最後に第３号議案が上程され、選挙管理委員会の報告により新たな役員および監事が承認されました。その後、新執行部による第４回理事会を開催し、新会長に前川清和氏を選出いたしました。

総会後には、退任する理事の方々へこれまでのご尽力に感謝の意を込め、花束贈呈のセレモニーが行われました。







第 31 代会長に前川清和氏

清水会長の辞任に伴い、令和 4 年 4 月に新会長に前川清和氏が就任された。そして、令和 4 年 6 月 11 日社員総会より令和 6 年社員総会締結までの 2 年間、大阪府歯科技工士会の会長として会員の先頭に立ち、会の運営を図ることとなった。

会長就任挨拶



会長に就任いたしました前川清和でございます。本年 4 月より大阪府歯科技工士会の会長という大役を任され、そして 6 月から 2 年間の任期で会長をさせていただくこととなり、大変身の引き締まる想いです。今回新しく執行部入りされた方が半数ほどおられますが、今期の執行部は学術を基盤におき進めて行きたいと考えております。

本年で大阪府歯科技工士会は創立 66 年となりました。66 年前に技工士会を作った目的というのは定款の前文に記されております。その前文の技工士会目的では「歯科技工に関する知識及び技術の進歩発展を図り、歯科技工の質の確保並びに向上に係わる事業を推進する」としています。これは今でも変わりありません。この大阪府歯科技工士会は、技工士のために作った会ではなく、技工士会会員のために作った会でもありません。模型の向こうにある患者、轡いては国民 1 人 1 人のために歯科技工士がしっかりとした知識、技術を身につけて歯科技工の質を高め、歯科医療に寄与することができるように作られた会です。

最近では技工士会に入ってもメリットが無いと言われる方がおられますが、技工士会は何かをもらえる会ではなく、メリットを与えるために作られた会なのです。そのメリットを受けるのは患者や国民であり、患者や国民のために質の高い義歯、補綴物を作製し口腔健康を維持することを目的としています。

66 年前にこのような志を持ってこの会は発足しました。そして、その志は今も続いていると私は思っております。我々が初めて歯科技工士免許を手にした時、模型の向こう側の患者のため、患者の笑顔のために一生懸命仕事をした志です。この志で大阪府歯科技工士会は本会と支部が一丸となり、医療従事者の自覚を持ち歯科医療に貢献できると確信しています。

これから新しい執行部になりましても会員の皆様、支部長はじめ支部役員の皆様方におかれましては、これまで通り会務等ご支援、ご協力の程、よろしくお願い致します。

歯科技工士法施行規則（リモートワークの解禁等）の一部改正に伴う講習会 ～ 日本歯科技工学会近畿支部第 19 回学術大会併催 ～

令和 4 年 9 月 19 日（月･祝）、ヴィアーレ大阪にて「歯科技工士法施行規則の一部改正に伴う講習会」が開催されました。

これまで、歯科技工の作業は医療情報を扱うことから「届け出された歯科技工所以外では作業を行ってはならない」とされてきましたが、歯科技工士法施工規則の一部を改正（令和 4 年 4 月 1 日施行）する省令が施行され、歯科技工におけるリモートワーク等が可能となりました。ただし、実際にリモートワークを行うためには、リモートワークに関する研修の受講や保健所への一部変更届の提出など、技工所側に様々な対応が求められており、また、リモートワークで行える業務についてもいくつかの制約があり、多くの歯科技工士に統一された正しい認識を周知して歯科技工業界全体の足並みを揃えることが極めて重要であると考え、講習会の開催を企画しました。

大阪府歯科技工士会では、このような主にデジタル技工に関する諸問題を専門的に対応するために、「歯

科技工デジタル対策諮問部会」を設立し、大阪府下をはじめ、近畿圏内で働く歯科技工士の一助となるように努めています。今回の省令改正においても技工所側の対応として、歯科技工所管理者は「業務に従事する者の管理」、「患者の歯科医療情報などを適切に管理するためのセキュリティー対策」、「歯科技工録の義務化」についての内容を含む研修を受講し、知識の習得、理解と意識の向上を図ることが求められています。

また、全国初のリモートワークの研修会であることから、開催告知後には早々に定員の 200 名を超え、キャンセル待ちも多数出ている状態になり、今回の省令改正への関心度は非常に高いことが伺えます。

それならば、WEB で開催してより多くの方に受講していただくべきではとの声もありましたが、今回の講習会においては本人確認を確実にするという観点から、会場での開催のみにさせて頂きました。厚労省の通知では、研修を受講することと併せて記録を残すことも要求されています。それだけ研修内容の理解は重要であり、且つリモートワークには社会的な責任が生じると考え、大阪府技では受講した記録として「受講証明書」を発行しました。受講証明書を発行する以上は主催者側にも責任が生じるため、受講者本人が確実にこの講習会を受講したかを確認するため、受付にて「身分証明書」を提示していただき、「会場の入退室の管理」などの対応をいたしました。

講習会では、省令改正の解釈及び歯科技工所管理者が習得すべき知識研修として大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課主査毛利泰士様より『歯科技工法施行規則の一部改正等について』、大阪大学歯学部附属病院・医療情報室オーラルデータサイエンス共同研究部門室長・准教授野崎一徳先生より『歯科技工におけるリモートワークの基本的な考え方』をご講演いただきました。

続いて『デジタル歯科技工の基礎知識とこれからの展望』をテーマとして、日本デジタル歯科学会理事長末瀬一彦先生に講演をいただきましたが、残念ながら講習会当日は台風 14 号の接近があり、参加される皆様の安全が最優先と考え、藤松先生の講演は急遽延期することになり、後日開催することになりました。

慌ただしくも粛々と講習会は進行され、参加者の方々は真剣な面持ちで受講をされていました。講習会後に感想を伺ってみると「リモートワークでできる技工と、できない技工との識別が良く分かった」や「セキュリティー対策について、責任の重大さを感じた」など、本講習会がリモートワークについての知識の習得、理解と意識の向上について役割を果たせていると実感しました。

先にも述べた通り、本講習会は省令改正後に全国で初めて開催されるリモートワークの研修会ということもあり、厚生労働省医政局歯科保健課の小椋正之課長や田代宗嗣課長補佐、日本歯科技工士会森野隆会長、松井哲也専務にもご臨席賜り、激励の御言葉を頂戴しました。

今回の省令改正では、ただ単にリモートワークにおける歯科技工が認可されただけではなく、その背景には女性歯科技工士の増加や介護等による歯科技工士の離職などの諸問題も深く関係しています。この省令改正により多様な働き方が可能となれば、歯科技工士資格を持ちながらも子育てや介護などを理由に離職する歯科技工士の減少、もしくは歯科技工士への復職も大きく期待でき、歯科技工士の働き方改革へとつながることを期待しております。

最後になりましたが、開催にあたりご後援頂いた日本歯科技工所協会西支部様、ご協賛頂いた 19 社のメーカー様、そして、ご講演を快くお引き受け頂いた講師の先生方に厚く御礼申し上げます。






歯科技工士法施行規則（リモートワークの解禁等）の一部改正に伴う講習会

受講証明書

No.22-09-＊＊＊

技工所名＊＊＊（管理者 or 実務者）

氏名　＊　＊　＊　　殿

あなたは、大阪府歯科技工士会主催の標記「講習会」を
受講したことを証します

令和４年９月19日

一般社団法人大阪府歯科技工士会
会長　前川　清和









令和５年 新年会

令和５年１月８日（日）､ホテル日航大阪にて「令和５年大阪府歯科技工士会新年会」が開催されました。

本来であればこの時期には、歯科医師会や歯科衛生士会、歯科業界の各団体やメーカー、そして政治家などの来賓をお招きして「新年互例会」を開催していたのですが、コロナウイルス第８波の感染状況および医療施設の逼迫状況に鑑み、来賓の方々をお招きせずに会員のみが集う「新年会」として開催しました。それでも、新年の催しは実に３年振りであり、このかしこまった雰囲気はどことなく懐かしくも感じました。

櫻井副会長より開会の辞が述べられ、新年会の幕があがりました。まず、大阪府歯科技工士会前川会長より新年の挨拶があり、その後、特別にご出席いただいた日本歯科技工士会森野会長にご挨拶を頂戴しました。前川会長は挨拶の中で「直面の課題として歯科技工士の高齢化による歯科技工士不足があり、次の担い手となる歯科技工士を増やす必要がある。大阪府技は学術を中心に若手歯科技工士や歯科技工士養成学校の学生ともっと親密な関係を築き、歯科技工の重要性や楽しさを伝えていきたい。」と話され､「我々、一人ひとりが安心で安全な歯科補綴物や有床義歯を製作し、患者ひいては国民の口腔健康に寄与することができる“職”であるという誇りを持った歯科技工士になることが、歯科医師、国民からの信頼に繋がり、歯科技工士を志す若者を増やし、様々な問題の解決につながると確信している。」と語り掛けました。新年会では新入会員の方も多く参加しており、とても良い刺激になったと思います。

続いて、令和３年度大阪府知事表彰を受けられた中央北支部の西康文様、中央南支部の野澤健二様に賞状の授与を行いました。代表として西様が登壇され、大阪府技との関わりや今後の大阪府技への期待感などをお話しくださり、我々理事にも大変励みになりました。

乾杯のご発声を大阪府歯科技工士会清水相談役より頂き、祝宴が始まりました。祝宴では、新たに仲間となった新入会員の皆さんの紹介を行いましたが、先にも書いた通り、新年の催しは３年振りであったため、過去３年間に入会した多くの方々を皆さんに紹介することが出来ました。

今回、コロナの状況に対応して来賓を招かずに開催しましたが、とても和やかな雰囲気での開催となり、比較的ゆったりとした時間に感じました。また、例年と違い着席するスタイルでの開催であったため、会員同士が座ってじっくりとお話するなど、とても良い親睦の場となっているように感じました。

最後に南郷谷副会長より閉会の辞があり、盛会のうちに幕を閉じました。








インボイス制度セミナー

2月5日（日）に大阪府歯科技工士会館にて、ハイブリッド型になりますが、（株）エフアンドエム、西田允人先生を迎え、インボイス制度セミナーの講演会を開催致しました。

新しい制度のセミナーの講演会という事で、沢山の参加者の皆様が真剣に集中し、講演を聞いていたのが印象的でした。





確定申告の時期であったので、そちらの話も少しして頂き、あっという間の60分の講演会となりました。

匠の技を見る

去る2023年3月5日（日）、新大阪歯科技工士専門学校にて本会主催「匠の技を見る」を開催いたしました。

コロナ禍を経て3年ぶりのリアル開催、クラウン、デンチャーおよび矯正の3つのコースに分かれ、合計36名の方にご参加いただきました。講師は各支部にて活躍されている若手会員4名と本会役員にて担当させていただきました。午前中のみの短い時間ではありましたが各技工ステップの勘所や日々の悩み事などを共有することができ充実した時間となりました。今回はメーカーにご協力いただき3Dプリンターの実演を行っていただきましたが、初めて見る方が大半で皆様大変興味をもたれておりました。









実習終了後は、本会組織部と協力して軽食を取りながら、参加者の皆様へアンケートを取らせていただきました。いただいたご要望を次回の開催に反映させていこうと思います。

ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

2023 年度

令和 5 年度（2023）年表	
4月9日	近畿デンタルショー 2023 でテーブルクリニックを開催
4月23日	デンタル CAD/CAM 講習会（大阪府歯科技工士会館）
5月21日	新入会員歓迎会（CAFÉ & DINER なんばパークス店）
6月10日	第 10 回社員総会（ドーンセンター）
9月1日	防災訓練の実施
10月29日	ボウリング大会（心斎橋サンボウル）
11月19日	第 2 回近畿デンタルサミット（千里ライフサイエンスセンター）
1月7日	新年互礼会（ホテル日航大阪）
2月1日	オンラインウォーキングコンペティション（2 月 29 日まで）
2月18日	国家試験受験生にオリジナル鉛筆を配布して激励
2月7日	能登半島地震支援活動「JDAT 大阪」に前川会長参加
3月23日	「匠の技を見る」スポーツマウスガード製作実習会（大阪府歯科技工士会館）



「近畿デンタルショー 2023 テーブルクリニック」にて講演会

4月9日（日）、インデックス大阪にて開催された「近畿デンタルショー 2023」のテーブルクリニックのひと枠を活用して、講演会を開催しました。久しぶりにインデックス大阪で開催された近畿デンタルショーの様子を見ていると、コロナ前の状態に戻りつつあることを実感しました。

講演会は、「どうつくる？パーシャルデンチャーでの対応」と題し、当会統括理事でもある㈱デンタラディア代表小山邦宏氏にご講演頂きました。パーシャルデンチャーをつくるためには「設計」「マテリアル」「製作方法」など様々な要素があり、歯科技工士はそれぞれの要素において様々な選択をしてパーシャルデンチャーを作り上げていますが、今回はデンタルショーでの開催ということもあり、「マテリアルの選択」に重点を置いてお話しくださいました。

パーシャルデンチャーを構成するパーツとして「人工歯（カスタムトゥース）」や「フレーム」、前処置としての「サベイドクラウン」などがあり、それぞれのパーツにおいて様々なマテリアルを選択しますが、デジタルの導入によりジルコニアやハイブリッドレジンなどの選択肢も追加されました。小山氏は、これらのマテリアルを適切に選択するためには、欠損の部位や長さなど模型から得られる情報だけではなく、口腔内の健康状態、また、審美的要求を含めた患者の要求などを知る必要があると説明されました。また、ご自身が手掛けた症例を紹介し、予後に対しても柔軟に対応できることがパーシャルデンチャーの利点であり、セット後のリスクを考慮してマテリアルを選択することが重要であると語りました。

今回の講演会はデンタルショー会場での開催ということもあり、聴講者の中には歯科医師や歯科衛生士の方もおられましたが、歯科技工士がどのように考えて歯科補綴物を製作しているのか、歯科技工士は補綴物を製作する上でどのような情報を求めているのかを知って頂く良い機会になったように思いました。

講演会のタイトルに「どうつくる？」とありましたが、小山氏は歯科技工士だけに問うているのではなく、歯科医師、歯科衛生士にも問うているように筆者は感じました。







デンタル CAD/CAM 講習会

去る 2023 年 4 月 23 日（日）、大阪府歯科技工士会館にて本会主催「デンタル CAD/CAM 講習会」を開催いたしました。

現在普及している歯科用 CAD/CAM システムに関して学びたいという会員様からのリクエストに応えまして、会場と web セミナーにて行わせていただきました。

3Shape、exocad、in Lab に関する説明は各ソフトを代表しまして、（株）松風、デンケン・ハイデンタル（株）、デンツプライシロナ（株）の 3 社に、特徴、操作方法およびシステムに関してお話しいただきました。CAD/CAM 冠を一つ製作するにしても各社とも操作方法が違い、できることも限られてくるようで、一つのシステムだけではなく複数のシステムを効率良く使いこなす必要があると感じました。

また、各社より歯科用ミリングマシンや歯科用 3D プリンターに関して説明もいただき、大変充実した内容を会員の皆様にお届けできたかと思います。

ご参加いただきました皆様ありがとうございました。





第 10 回 社員総会



令和 5 年 6 月 10 日（土）、ドーンセンターに於いて、第 10 回社員総会が開催されました。

開催方法については、新型コロナウイルスが 5 類感染症に引き下げられたことを受け、通常通りの対面での開催方法としました。

同日、16 時 30 分より、資格審査委員会、議事運営委員会が開催され、その後、18 時より代議員 39 名出席のもと、中川議長、上原副議長の進行にて総会が行われました。

まず、前川会長による挨拶があり（挨拶の内容は、大歯技広報 7,8 月合併号（第 547 号）に掲載）、その後、下記議案の審議が行われました。

第 1 号議案　令和 4 年度事業経過報告承認の件
第 2 号議案　①令和 4 年度会計収支決算報告承認の件
　　②監査報告
　　③財務委員会報告

質疑応答のあと、上記議案について全て承認されました。

最後に、令和 5 年度事業計画及び予算の報告を行い閉会となりました。

ボウリング大会

令和５年 10 月 29 日（日）、心斎橋サンボウルにて健康増進に係る事業としてボウリング大会を開催しました。参加者は 61 名で新入会員 16 人、一般会員 39 人、他府県２人、学生４人でした。

前川会長の挨拶と始球式から始まったボウリング大会。10 代の学生から 60 代までの様々な年代の方々にご参加いただきました。

初めてボウリングを体験したという学生や若い世代の参加者がガーター続きで苦戦している中、昭和世代いわゆるボウリング世代の参加者はナイスポージングで次々にストライクを出し、歓声が沸きました。

府技代表前川会長も例外でなく、華麗なスイングで好成績をたたき出し、なんと５位入賞を果たしました。

女性にはスコア 30 点のハンデが与えられましたが、中にはターキーを出す女性参加者がおられ、ハンデが要らないぐらいの腕前でボウリング大会は盛り上がりました。

ボウリング大会後の懇親会では、小谷副会長の乾杯の挨拶で始まり、お食事をたのしみながら会員同士の親睦を深めました。

懇親会でボウリング大会の表彰式を行い、１～５位、飛び賞、ブービーと計 10 名の方に景品の贈呈を行いました。

表彰された 10 名がそれぞれくじを引き、成績２位入賞者が「まいにち､修造 ！」カレンダーを引く、という番狂わせもあり、表彰式も大いに盛り上がりました。

宴もたけなわ、長久統括理事に中締めのご挨拶をいただき、本イベントは幕を閉じました。

昨年のハイキングイベントにもいらした会員の方にお声かけしたところ、『この様なイベントには参加するよ』というありがたいお声もいただきました ！

今後も会員の皆様の声に耳を傾け、より充実したアクティビティを企画し、府技会員の交流を深めていきたいと思います。









2024 年 新年互礼会

2024 年 1 月 7 日（日）、ホテル日航大阪にて新春恒例であった新年互礼会が 4 年ぶりに開催されました。昨年も開催はしましたが、参加者を会員のみとした「新年会」としての開催であったため、通常通り来賓をお招きする「新年互礼会」は 2020 年以来となりました。ただし、通常通りと言ってもコース料理を着席で頂くなど、感染拡大防止を考慮しての開催としたため、ご来賓には大阪府の要職、大阪府・府下地域歯科医師会、学校関係、関係団体、関係各社の方々のみをお招きしました。

先ず、南郷谷副会長より開会の辞が述べられ、2024 年新年互礼会の幕があがりました。はじめに前川会長より新年のあいさつがあり、昨年 11 月に開催され、1,000 名以上の参加を実現し盛会に終えることができた「第 2 回近畿デンタルサミット」について、関係各所にお礼を述べました。また、歯科医師会の深田会長には、加藤前厚生労働大臣のご講演の実現に大きく寄与していただいたことを明かし、歯科技工士会単独では不可能なことも歯科医師会、歯科衛生士会の協力があれば実現することができることを実感したと語られました。大会テーマであった「次世代の継承」について、今後は大阪府歯科技工士会のテーマとして捉え、学術や技術の継承にとどまらず、歯科技工所の継承、支部役員の継承、本会執行部の継承など、多岐に亘り取り組んでいきたいと述べられました。

その後、多くの来賓の中から、渡邉繁樹副知事、深田拓司大阪府歯科医師会会長、下江宰司日本歯科技工士会副会長、谷川とむ自民党大阪府支部連合会会長、石川博崇公明党大阪本部会長があいさつをされました。深田大阪府歯科医師会会長は、前川会長が話された「近畿デンタルサミットでの加藤前厚生労働大臣への取り次ぎ」の話題に触れ、ほんとに頼みに来るとは思わなかったと冗談を交えながらも、今回の件のように三歯会（歯科医師会、歯科衛生士会、歯科技工士会）がデンタルファミリーとしてお互いフラットに協力し合えるような関係を築きたいと述べられました。このフラットな関係を象徴すべく、デンタルファミリーの T シャツを作製していることを明かし、夢のある歯科界を目指すためにもデンタルファミリーとしてより良いお付き合いをお願いしたいと語られあいさつを終えられました。

続いて、府知事表彰受章者の紹介が行われ、その後、乾杯のご発声を山口大阪府歯科衛生士会会長より頂戴し、祝宴が始まりました。祝宴では、久しぶりの開催となったお楽しみ抽選会など催され、大変な盛り上がりとなりました。

最後に、櫻井福会長より閉会の辞があり、盛会のうちに幕を閉じました。









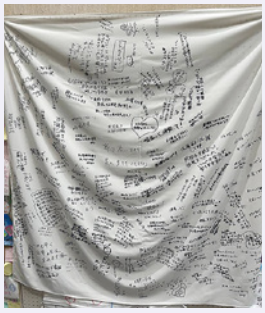
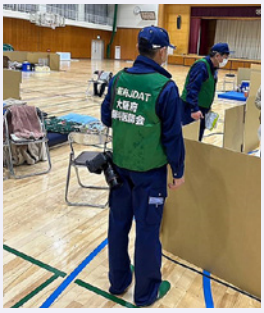
能登半島地震支援活動「JDAT 大阪」に参加

令和６年２月７日､前川会長が支援 JDAT「JDAT 大阪」に帯同し、令和６年能登半島地震の被災地である石川県七尾市を訪れました。

JDAT とは、「Japan Dental Alliance Team：日本災害歯科支援チーム」のことで、災害発生後おおむね 72 時間以降に地域歯科保健医療専門職により行われる、緊急災害歯科医療や避難所等における口腔衛生を中心とした公衆衛生活動を支援することを通じて被災者の健康を守り、地域歯科医療の復旧を支援すること等を目的としています。

今回、「JDAT 大阪」に前川会長自らが帯同し、現地での実務の中で災害歯科における歯科技工士の役割について学んできました。訪れた日は震災から約１ヶ月が過ぎており、七尾市の状況は少しずつ改善されていると実感しましたが、被災された方々は長引く避難に疲れを感じているように見受けられたそうです。

今回の経験を基に、今後、大阪府歯科技工士会として「JDAT」にどのようにかかわるのか、しっかりと検討していきたいと思います。

匠の技を見る
～ スポーツマウスガード製作実習会 ～

去る令和６年３月 23 日（土)、大阪府歯科技工士会会館でスポーツマウスガード製作実習会開催させていただきました。講師に松田信介先生をお招きし、スポーツ歯学における基礎知識からマウスガード製作に関わる重要なポイントを講義・実習を通して丁寧に指導していただきました。

マウスガードの製作において誰もが経験する、「この作り方で合っているんだろうか？辺縁の長さは適正？７番までいるの？圧痕は付与すべき？」など、疑問を持ちつつ日々製作していらっしゃいませんか？

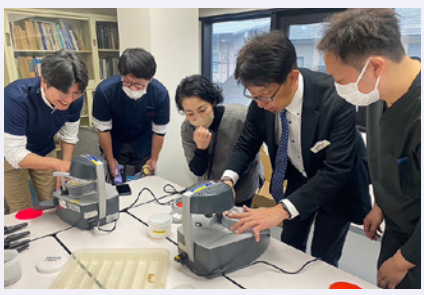
当日は一般社団法人日本スポーツ歯科医学会のガイドラインに基づいて、松田先生がその根拠を踏まえ、これまでの経験をもとに細かく教えていただきました。受講生の皆様からも満足のお声をいただき、充実した実習会を開催できた事改めて講師をはじめご協力をいただいた皆様に御礼申し上げます。

協賛いただいた株式会社スマートプラクティス瀬川様、機材等お貸しいただき誠に感謝申し上げます。

次年度におきましても同実習会開催予定です。会員の皆様のご参加お待ちしております。







2024 年度

令和 6 年度（2024）年表

5 月26日	診療報酬改定講習会（新大阪歯科技工士専門学校）
6 月22日	第 11 回社員総会（エルおおさか）
6 月30日	全スタッフ合同会議（エルおおさか）
7 月21日	カービング実習セミナー（新大阪歯科技工士専門学校）
9 月 3 日	防災訓練の実施
9 月 8 日	新入会員歓迎会（テーブルナイスなんばパークス店）
9 月29日	第 1 回学術講演会（大阪大学中之島センター）
11月10日	ボウリング大会（心斎橋サンボウル）
11月17日	第 2 回学術講演会（心斎橋 TKP カンファレンスセンター）
1 月12日	新年互礼会（ホテル日航大阪）
1 月19日	スポーツマウスガード実技講習会（大阪府歯科技工士会館）
2 月 1 日	オンラインウォーキングコンペティション（2 月 28 日まで）
2 月16日	国家試験受験生にオリジナル鉛筆を配布して激励
2 月16日	第 3 回学術 WEB 講演会（大阪府歯科技工士会館）

第 11 回 社員総会

令和 6 年 6 月 22 日（土）、エル･おおさかに於いて、第 11 回社員総会が開催されました。

同日、16 時 30 分より、資格審査委員会、議事運営委員会が開催され、その後、17 時より代議員 37 名中、33 名出席のもと、中川議長、上原副議長の進行にて総会が行われました。

まず、前川会長による挨拶があり（挨拶の内容は、大歯技広報 7,8 月合併号（第 554 号）に掲載）、その後、下記議案の審議が行われました。

第 1 号議案　令和 5 年度事業経過報告承認の件
第 2 号議案　①令和 5 年度会計収支決算報告承認の件
　　②監査報告
　　③財務委員会報告
第 3 号議案　一般社団法人大阪府歯科技工士会定款一部改正の件
第 4 号議案　会員管理及び会費規程の一部改正の件
第 5 号議案　役員報酬及び諸費用弁償規程一部改正の件
第 6 号議案　共済互助規程一部改正の件
第 7 号議案　任期満了に伴う理事及び監事選出の件
第 8 号議案　任期満了に伴う外部監事選出の件
第 9 号議案　顧問の設置と選任の件

質疑応答の後、第 7 号議案を除く上記議案について全て承認されました。最後に第 7 号議案が上程され、選挙管理委員会の報告により新たな役員および監事が承認されました。その後、新執行部による第 4 回理事会を開催し、新会長に前川清和氏を選出いたしました。

最後に、令和 6 年度事業計画及び予算の報告を行い閉会となりました。





カービング実習セミナー

去る令和 6 年 7 月 21 日（日）、新大阪歯科技工士専門学校にて本会主催「今までと、ひと味違う…カービング実習セミナー」を開催しました。

“～じっくり 2 時間天然歯の咬合面彫りませんか?～”を合言葉に合計 37 名の方にご参加いただきました。

講師は各支部で活躍されている若手会員 3 名、稲田先生（中央北）、山本先生（中央北）、立石先生（北東）にご担当いただき、咬合面形態を満足いくまでカービングしていただくため、3 倍大に拡大した上顎第一大臼歯の咬合面近心半を被覆した石膏模型を準備し、2 時間じっくりカービングを行っていただきました。



まず、稲田先生より作成されたステップ資料を基に、カービングの進め方を簡潔丁寧にご説明いただき、3 グループに分かれ実習をスタート。実習中は 3 名の講師が進行具合を丁寧にチェックし、受講者からの多くの質疑にも答えていただいていました。

学生の参加者が多く、講師の方々とも年齢が近いため実習後の茶話会では多くの質疑が行われ盛況に実習会を終えることが出来ました。

ご参加いただきました会員の皆様、ご協力いただきました講師の皆様、ありがとうございました。

今後も皆様に有益な勉強会、実習会を開催できるように努めたいと思います。






令和６年度 新入会員歓迎会

令和６年９月８日（日）なんばパークス２階のPizzeria & Trattoria Bar Table Nice（テーブルナイス）にて『新入会員歓迎会』を開催しました。

まだまだ暑さの厳しい中でしたが、新入会員17名を招待することが出来、一般会員44名と合わせて61名の方々に参加いただきました。

山下茂子日技副会長よりの挨拶と本会役員の紹介に続き、長久副会長より乾杯の挨拶でスタートしました。

歓談中には『歯の本数あて』『各支部長の年齢あて』『お絵描きリレー』の交流イベントで大いに盛り上がり、支部ごとに新入会員の方を交え世代を超えて交流を深めることが出来ました。優勝チームは北東支部でした。

最後に南郷谷副会長より締めの挨拶を頂き閉会となりました。

このようなレクリエーションや講習会などの企画を通して会員の皆様にとって有意義な会であるよう今後も活動していきます。今回参加して頂いた会員の皆様ありがとうございました。











第１回 学術講演会

令和６年９月29日（日）大阪大学中之島センターにて本会主催「第１回学術講演会」を開催しました。講師は本会会員の３名、西山浩行先生（中央北）、有沢旬平先生（南大阪）、加藤拓也先生（中央北）にご講演いただきました。

▶西山先生「進化していくデジタル技工に対する準備・対策・対応」

開業10年で50人規模の歯科技工所となり、開業当初のアナログ技工から如何にスタッフの考え方を「デジタルマインド」にシフトしたか、設備投資だけでなくIOSによるCADインレーなどの検証を通じてデジタルとアナログの融合を行い企業としてノウハウを蓄積してきたこと等を紹介された。

▶有沢先生「院内技工士から見たデジタル化による日常臨床」

自身のこれまでのキャリアについてや、普段院内技工室で行っている製作内容を紹介。院内技工士はチェアサイドに近い距離でコミュニケーションできることや、CAD/CAMを使用した即日修復等のケースプレゼンテーションを行った。

▶加藤先生「未来を創る：歯科技工所のデジタルワークフロー導入の実践と展望」

これからCAD/CAMを導入する方に向け、デジタル化を段階的に分けて説明を行った。段階的に必要な設備投資などを分かりやすく図解で説明、導入にあたるメリット・デメリットも詳しく説明した。今後の業界課題として人材育成についても触れ、自社で行っている石膏彫刻やデジタルスキルを磨くための石膏彫刻をデジタルデザインに置き換えた育成法を紹介。最後には既に一部ですすめられているAi化についても紹介された。

多くの方にご参会いただき誠にありがとうございました。今後も皆様に有益な勉強会、実習会を開催できるように努めたいと思います。









第 2 回 学術講演会

令和 6 年 11 月 17 日（日）、心斎橋 TKP カンファレンスセンターにて本会主催「2024 年度第 2 回学術講演会」を開催しました。会員 52 名、未入会員 2 名、当日入会者 1 名の計 55 名の方に参加していただきました。

「デジタルデンチャーの製作・設計プロセスの最適化と品質管理」というテーマで亀遊宏直先生（富山県歯科技工士会所属）にご登壇いただき、義歯製作のデジタル化について、設備導入から製作法、留意点などを 3 部に分けてご講演いただきました。

デジタルデンチャーは保険適応外ではありますが、機械や材料の品質など全体的に向上し、有意性がある分野となっているとのことでした。CAD デザインからミリングマシン、3D プリンタで出力するまでをステップごとに説明され、各所においてこれまでの経験から培ったノウハウを紹介されました。

CAD デザイン後にミリングマシンを選択するのか 3D プリンタを選択するのかについて、それぞれのメリット・デメリットを紹介し、精度・再現性・導入コストなど多くの指標があるため、運用する歯科技工所の環境によってシステム構成が変わると説明されました。材料についても、ミリング用ワックス 1 つとってもレジンの含有量によって埋没材を変更する必要があることなど、デジタルを導入した後に躓きそうな課題について経験談をふまえ紹介され、デジタルを全く導入されていない方にも非常に分かりやすい講演となっていました。

今回も協賛企業の中からデンケン・ハイデンタル㈱、㈱松風、Deltan ㈱の 3 社の企業様に商品展示などご協力いただき、盛況の中終えることができました。









2025 年 新年互礼会

2025 年 1 月 12 日（日）、ホテル日航大阪にて新春恒例の新年互礼会が開催されました。

ご来賓には、国会・府会・市会議員をはじめ、大阪府の要職、大阪府・府下地域歯科医師会、学校関係、関係団体、関係各社の方々を合わせて 98 名を迎え、本会会員も 133 名が出席しました。

まず、堀之内専務理事より開会の辞が述べられ、2025 年新年互礼会の幕があがりました。はじめに前川会長より新年のあいさつがあり、「本年は大阪府技工士会創立 70 周年と大阪府歯科医師会 100 周年となる節目の年であり、大阪府歯科医師会は大阪万博に参画するとのことで、より一層協力体制を強め大阪万博を盛り上げるとともに、医療を支える団体として持続可能な業界を次世代に繋げていけるよう執行部一同頑張って参ります」と述べられました。

続いて、ご来賓の皆様より祝辞を頂戴しました。先ず、大阪府健康医療部部長西野誠様より大阪府知事吉村洋文様からの祝辞として、「大阪府では『第 3 次大阪府歯科口腔保健計画』を策定しており、ライフコースに沿った歯と口の健康づくりを支える社会環境整備を推進する」とのお言葉をいただきました。次に大阪府歯科医師会会長深田拓司様は、「祝いの席ではあるが、ただ憂いて立ち止まっているわけにはいかない。国民の健康成就に貢献することが我々の責務であり、厳しい歯科業界の現状を打破する努力をしなければならない。それには行政の理解を得るため歯科業界の気持ちを伝える必要がある」と述べられ、日本歯科技工士会会長森野隆様は、歯科技工士のなり手不足と高齢化について言及され、「しかし、これをピンチではなくチャンスと捉え邁進していく」と述べられました。

その後、自由民主党大阪府支部連合会会長青山繁晴様、公明党大阪本部代表代行杉久武様、立憲民主党大阪府総支部連合会代表森山浩行様、大阪維新の会幹事長岩谷良平様から祝辞があり、皆様から力強い心のこもったメッセージをいただきました。続いて、2023 年度大阪府歯科保健活動事業功労者表彰受章者の南郷孝嘉氏（南大阪）と大石直之氏（北大阪）に記念品の贈呈が行われました。

その後、大阪府歯科衛生士会会長山口千里様より乾杯のご発声を頂戴し、祝宴が始まりました。祝宴では、関係各社・関係団体の方々や新たに仲間となった新入会員の方の親睦の場となり、とても賑やかで明るい新年のスタートとなりました。最後に櫻井福会長より閉会の辞があり、盛会のうちに幕を閉じました。













スポーツマウスガード実技講習会

令和７年１月 19 日（日）、大阪府歯科技工士会館にて昨年に引き続きスポーツマウスガード実技研修会を実施した。講師も昨年同様松田信介先生に依頼した。マウスガード製作に必要となる機器の取り扱いを行っている株式会社スマートプラクティスジャパン様に協力をもらい、エルコプレス（フォーマー）３台を用いてマウスガード製作実習を行った。

昨年の反省を振り返り、時間を要するマウスガードのプレスを最初に行い、マウスガードが冷めるまで（約１時間）の間に講義を行った。事前に参加者にマウスガードの経験値アンケートをとるなどの準備も出来ていたこともあり、今回はほぼ時間どおりに全てのカリキュラムを終えることが出来た。マウスガードが全く初めての参加者から既に製作経験がある参加者まで多岐にわたったが、松田先生のエビデンスを基に誰が製作しても再現性が高いマウスガードの作り方は参加者全員熱心に取り組んでいた。

松田先生の講義はエビデンスに豊富な臨床経験を組み合わせた講義であり、目的・内容・伝え方全てにおい大変素晴らしかった。











国家試験受験生にエールを !!

令和７年２月 16 日（日）、歯科技工士国家試験が行われ、大阪府下の歯科技工士養成学校から約 130 名が受験しました。

大阪府歯科技工士会では、昨年に引続き大阪府下歯科技工士養成学校５校の受験生全員に【合格祈願】の刻印を入れたオリジナル鉛筆（写真）を配布しました。

受験生は必ず鉛筆を持参するそうなので、手元から受験生にエールを送らせていただきました !!

受験生の皆さまが合格され、私たちと一緒に歯科技工の業界を盛り上げる仲間となることを心待ちにしております。



2025 年度

令和 7 年度（2025）年表	
4月12,13日	近畿デンタルショー 2025 でテーブルクリニックを開催
5 月18日	カービング実習セミナー（新大阪歯科技工士専門学校）
5 月24日	新入会員歓迎会（心斎橋サンボウル）
6 月21日	第 12 回社員総会（本町・カーニープレイス）
7 月27日	学術講演会＆ながら運動（大阪大学中之島センター）
9 月21日	第 2 回カービング実習セミナー（新大阪歯科技工士専門学校）
10月26日	大阪府歯科技工士会創立 70 周年記念式典・祝賀会（ホテル日航大阪）
11月 5 日	防災訓練の実施

カービング実習セミナー

令和７年５月18日（日）、新大阪歯科技工士専門学校にて、昨年に引き続き本年も「今までと、ひと味違う…カービング実習セミナー」を開催しました。“～じっくり２時間天然歯の咬合面彫りませんか？～”を合言葉に合計19名の方に参加いただきました。

講師は各支部で活躍されている若手会員３名、稲田先生（中央北）、立石先生（北東）、平田先生（北大阪）に担当していただき、咬合面形態を満足いくまでカービングするため３倍大に拡大した上顎第一大臼歯の咬合面近心半を被覆した石膏模型を準備し、２時間じっくりカービングを行っていただきました。



まず、稲田先生より作成されたステップ資料を基に、カービングの進め方を簡潔丁寧に説明し、３グループに分かれ実習をスタートしました。実習中は３名の講師が進行具合を丁寧にチェックし、受講者からの多くの質疑にも答えていただきました。各支部学術部員も講師サポートを行い円滑に進めることができました。学生の参加者が多く、講師の方々とも年齢が近いため実習後の茶話会では多くの質疑が行われ盛況に実習会を終えることができました。





令和７年度 新入会員歓迎会

令和７年５月24日（土）18：00から、心斎橋サンボウルにて令和７年度新入会員歓迎会を開催しました。今回は新入会員、登録会員の皆さんを対象に、ボウリング大会という形で実施し、大阪府内の養成校の先生方にもご参加・ご協力いただきました。新入会員34名、一般会員38名、あわせて72名もの方々にご参加いただきました。

開会にあたり、櫻井副会長よりご挨拶をいただき、本会役員および各支部の支部長の紹介が行われました。その後、櫻井副会長の「スタート！」の掛け声とともに、ボウリング大会がスタートしました。

久しぶりのボウリングという方も多かったようですが、いざ始まるとどのレーンも笑顔と歓声に包まれとても盛り上がりました。支部ごとにレーンを分け、新入会員と支部役員が一緒にプレーすることで、自然と交流も深まり、楽しいひとときとなりました。

表彰では、１位から３位までの方に景品を、新入会員の皆さん全員には参加賞をお渡ししました。ちなみに、上位３名はすべて南大阪支部の方々が占めるという結果に！優勝スコアは、192点と177点の合計369点という素晴らしいスコアでした。

閉会にあたり、南郷谷副会長よりご挨拶をいただき、大会は盛況のうちに終了いたしました。

今後も、このようなレクリエーションや講習会等の企画を通じて、会員の皆様にとって有意義な活動となるよう努めてまいります。今回ご参加いただいた会員の皆様、そしてご協力いただきました学校関係者の先生方に、心より感謝申し上げます。















第 12 回 社員総会





令和７年６月21日（土）、本町カーニープレイスに於いて、第12回社員総会が開催されました。

同日、16時30分より、資格審査委員会、議事運営委員会が開催され、その後、18時より代議員36名出席のもと、中川議長の進行にて総会が行われました。

まず、前川会長による挨拶があり（挨拶の内容は、大歯技広報7･8月合併号（第563号）に掲載）、その後、下記議案の審議が行われました。

第１号議案　令和６年度事業経過報告承認の件
第２号議案　①令和６年度会計収支決算報告承認の件
　　②監査報告
　　③財務委員会報告

質疑応答のあと、上記議案について全て承認されました。

最後に、令和７年度事業計画及び予算の報告を行い閉会となりました。

学術講演会＆『ながら運動』

さる令和７年７月27日(日)、大阪大学中之島センターにて、本会においても初の試みである学術部と福祉厚生部の合同開催で、令和７年度第一回学術講演会に加えミズノ株式会社のご協力をいただき、健康増進にかかわる事業として『ながら運動』を開催した。

本学術講演会では、インプラント補綴におけるチームアプローチの重要性と、デジタル技術を活用した精度の高い補綴装置製作のあり方が示された。宮崎恵子先生（北大阪支部）からは、チェアサイドで得られる多様な情報をいかに正確にラボへ伝達し、長期安定性のあるインプラント補綴を実現するかという課題に対し、最新のデジタルツールを用いた具体的手法が紹介された。藤田一志先生（中央北支部）からは、特に審美領域におけるインプラント治療において、技工士が治療計画から関与し、資料を最大限活用することで、後戻りのない高精度な補綴装置を提供し得ることが強調された。両講演を通じ、コミュニケーションの深化とデジタル技術の活用が、患者満足度を高める次世代のインプラント補綴の「鍵」であることが再確認された。参加者からは、実践に活かせる情報が多く得られたとの声が多く寄せられ、今後の臨床および技工の質の向上に繋がる講演会となった。

インストラクター指導のもとストレッチから筋トレ、マッサージをコンパクトにまとめた『ながら運動』は言葉の通り、ちょっとした隙間時間や仕事の間に椅子に座ったままでもできる運動などが多く取り入れられていた。終了後のアンケートにおいても、『運動・健康への意識に変化があったか?』の問いには会場の90%以上の方が『非常に高まった・高まった』と回答された。また、『日常に取り入れたいか?』という回答も90%以上を示していた事から健康増進に対する意識の向上に貢献できた。今回参加頂いたのは20歳代から70歳代までの幅広い年齢層の技工士で多種多様だが、それぞれの職場環境や生活リズムで取り入れることのできる点で有効だと思われる。

ミズノ株式会社より参加者特典のご案内と今回参加できなかった会員の皆様へ『ながら運動』の資料を一部公開しています。ぜひ体験してみてください。







第２回 カービング実習セミナー

令和７年９月21日（日）10：00～13：00、新大阪歯科技工士専門学校３Ｆ小教室にて本年第２回目となる若手歯科技工士向けの実習会を17名参加のもと新大阪歯科技工士専門学校にて開催しました。

講師は以前から依頼している若手会員３名、稲田先生（中央北）、立石先生（北東）、山本先生（中央北）に担当いただきました。

今回は上下歯列模型の各６番を一部被覆する部位から、歯冠全てを覆ったものなど４段階にリリーフ量を変え、“インレー、アンレー、オーバーレイ、フルカウンタークラウン”での技工操作に応用出来る実習を行いました。

まず、各講師の自己紹介を行い、そこからは稲田先生よりカービングの進め方を簡潔丁寧に説明し、３グループに分かれ実習をスタートしました。実習は３名の講師が進行具合を丁寧にチェック、学術部員もサポートとして受講者への対応を行いました。

今回は講師より総評があったため茶話会の時間が少なくなりましたが、茶話会も受講生、講師、部員間で、多くのコミュニケーションが行われ盛況に実習会を終えることが出来ました。











大阪府歯科技工士会　創立 70 周年記念式典・祝賀会

本会創立 70 周年式典および祝賀会が、令和 7 年 10 月 26 日（日）にホテル日航大阪において開催された。ご来賓には国会・府議員をはじめ大阪府歯科医師会、学校関係、関係団体、関係各社の方々を合わせて 84 名を迎え、本会会員も 86 名が参加した。

式典は午後 3 時から、4F 孔雀の間にて開催された。始めに前川会長より式辞があり、ご来賓への謝辞と本会会員に向けて日頃の事業運営への多大な協力に感謝の意を述べられた。

ご来賓より西野誠・大阪府健康医療部部長、太田謙司・日本歯科医師連盟会長、末瀬一彦・一般社団法人日本デジタル歯科学会理事長、森野隆・公益社団法人日本歯科技工士会会長、深田拓司・一般社団法人大阪府歯科医師会会長、山口千里・公益社団法人大阪府歯科衛生士会会長よりご祝辞を頂いた。次に、受賞者の方々へ表彰が行われ、受賞者代表として西村元彦氏（南大阪支部）より謝辞が述べられた。

祝賀会は午後 4 時 30 分から 5F 鶴の間にて開催された。前川会長の挨拶に続き、ご来賓のスピーチでは、松川るい参議院議員・自由民主党大阪府支部連合会会長代行、木村正・一般社団法人日本歯科技工所協会会長よりご祝辞を頂いた。その後、式典にて表彰を受賞された 23 名の会員へ記念品の贈呈が行われた。

70 周年祝賀にあたり鏡開きが行われ、山下茂子・公益社団法人日本歯科技工士会副会長の乾杯の発声で祝宴が始まった。そして、ゴスペルグループ「ザ・ソウルマティックス」の演奏で、ご歓談の時間は華やかに盛り上がり、音楽と共に一体感のある祝賀会となった。

最後に、櫻井副会長により閉会の辞があり、盛会のうちに幕を閉じた。













特集　近畿デンタルサミット開催

【第１回：2019年９月22日　－ 匠の真髄を見る －】
【第２回：2023年11月19日　－ 次世代への継承 －】

「学術から未来を」との思いを掲げて開催した大規模な学術大会は、大阪府歯科技工士会にとって初めての試みであった。開催は容易ではなく、前川統括理事を中心に開催の１年以上前から企画準備がされていた。「昨今の若手歯科技工士は夢や希望が持てず業界への期待値がかなり低く感じる。若手歯科技工士が夢や希望を持てる業界を目指そう」その思いに賛同した各スタディグループが講師を輩出し、協賛企業や会員の協力もあって開催の実現に至った。

近畿デンタルサミット 2019

「近畿デンタルサミット 2019 ～匠の真髄を見る～」では、大阪・梅田の会場に予定の参加者を大きく超える約 900 名の参加者が集まった。AP 大阪駅前梅田１丁目ビルの２つのフロアを貸し切り、４つのホールでそれぞれ講演する形式で行い、演者には各スタディグループの主要メンバーに努めていただいた。演者は総勢 21 名、１日で 20 講演が行われた。

開会式で大会長である大阪府技会長 清水潤一氏は、労働環境、働き方改革など様々な諸問題により苦しい環境にある歯科技工士ではあるが、「学び」を通じこれだけの人数が集まる事ができるのも歯科技工士であると話し、“サミット”と銘打ったのも各所属にとらわれることなく“歯科技工士はひとつであること”を示すためであると述べられた。

朝９時から夕方４時まで多様な講演が続き、どの会場もほぼ満席の状態であった。また、お昼の時間帯には、（株）松風、（株）デンタリード、白水貿易（株）、デンツプライシロナ（株）によるランチョンセミナーを開催し、余すことなく学術と歯科業界の展望に触れていただく時間となった。

また、全国の歯科技工士養成所の学生を対象とした「石膏カービングコンテスト」を開催し、当日出題された課題に真剣に取り組む学生の姿が印象的であった。演者である講師の先生方に審査員を務めていただき、それもまた学生にとっては魅力的な企画であったと感じる。閉会式にて上位３名を表彰した。









【石膏カービングコンテスト入賞者】
最優秀賞：稲垣 七海 様（東洋医療専門学校）
優 秀 賞：石橋 龍二 様（京都歯科医療技術専門学校）
審査員特別賞：上林 愛珠花 様
（京都歯科医療技術専門学校）

閉会式では西副会長より「このような大規模な企画を１度きりにするのではなく、継続させることで初めて意味を成してくる。」との挨拶があり、閉幕となった。

若手歯科技工士が夢や希望を持てる業界を目指すべく「学術から未来を」との思いで企画された「デンタルサミット」であったが、その思いが届いたのかとても多くの若手歯科技工士が参加していた。“匠の技の神髄を見る”と掲げられたテーマにおいて、若手歯科技工士に歯科技工の魅力ややりがいを感じていただけたと思われる。





第２回 近畿デンタルサミット

そして４年後…

継続させることを有言実行し、「第２回 近畿デンタルサミット ～次世代への継承～」が開催された。

2019 年末から続く新型コロナウィルスの感染拡大の影響から緊急事態宣言が発令し、世の中はコロナ禍において疲弊していた。この状態が徐々に緩和されてきた 2023 年、学術を通じて歯科技工業界に活気を取り戻したいという小山大会長の意向で再び近畿デンタルサミットを開催する運びとなった。

第２回では「次世代への継承」と掲げ、ベテラン歯科技工士から公募で選ばれた若手歯科技工士など 20 名を超える講師を招き、特別講演として加藤勝信前厚生労働大臣にもご講演いただいた。加藤前厚生労働大臣による特別講演では、「コロナ禍乗り越え、新たな時代に」と題し、コロナ禍において浮き彫りとなった医療情報収集の不十分さに対し、解決へ導くための医療 DX の推進について説明された。また、行政の立場からみる歯科医療の重要性において、歯科技工士の人材確保対策事業ならびに歯科技工のリモートワーク実現の経緯を交えて説明された。「歯科技工士の養成・確保に関する検討会」で行政が歯科技工士について考え、議論していることを知り、多くの若手歯科技工士には未来を考えるとても良い機会となったと感じる。

またサミットの一環として、学生による「カービングコンテスト」も開催した。入賞者の授賞式では、審査員長を務めた脇田太裕先生より審査で重要視したポイントなど総評が添えられ、学生らは熱心に聞いていた。









【カービングコンテスト入賞者】
1位：玉川 華江 様（新大阪歯科技工士専門学校）
2位：森　　大希 様（新大阪歯科技工士専門学校）
3位：習田 心颯 様（京都歯科医療技術専門学校）
審査員特別賞：稲毛 和花 様（東北歯科技工専門学校）

今回は協賛いただいた39社の企業に展示をしていただき、展示会場では来場者への製品説明などデンタルショーさながらの盛り上がりをみせていた。

閉会式では、日本歯科技工学会会長 石川功和様よりご挨拶をいただき、「第2回近畿デンタルサミット」は大盛況のうちに閉幕となった。

歯科技工士不足、次の担い手不足などが現実として差し迫っている昨今において、“次世代への継承”をテーマに掲げた今回のサミットでは、まさにそのキーマンとなる若手歯科技工士が多く参加されており、若手にとって魅力と興味のある講演と感じていただけたと感じる。様々な講演の中で、知識や技術の継承となるヒントを見いだせていただければ嬉しく思う。







表彰者（平成27年～令和７年）

大阪府知事表彰（歯科保健活動事業功労者）

平成27年	（平成28年２月18日）	藤谷　孝夫	芝原　和彦
平成28年	（平成29年１月26日）	齊藤　　勲	小田　純司
平成29年	（平成30年１月25日）	長久　宏之	山口　雅弘
平成30年	（平成31年１月29日）	小谷　和弘	山下　茂子
令和元年	（令和２年１月23日）	時見　高志	野尻　隆志
令和２年	（令和３年１月26日）	本多　隆男	大西　正和
令和３年	（令和４年１月27日）	西　　康文	野澤　健二
令和４年	（令和５年１月19日）	清水　潤一	上原　禎治
令和５年	（令和６年１月18日）	南郷　孝嘉	大石　直之
令和６年	（令和７年１月30日）	本多　晴久	中西　正泰

令和２年度　大阪府歯科技工士会創立65周年記念

知事表彰	前川　清和	森　　直美		
知事感謝状	本多　晴久	西　　康文	野澤　健二	南郷　孝嘉
会長表彰	大石　直之	上原　　剛	中西　正泰	小原　雅生
会長感謝状	齊藤　峰信	中矢　　学	藤原　敏郎	大池　信也
	榊原　秀典	宮之原　稔	大西　稔彦	芝原　和彦
	山田　貴秀	田中　敏之		

令和７年10月26日　大阪府歯科技工士会創立70周年記念

知事表彰	西村　元彦	千葉　直樹			
知事感謝状	原　　利和	北田　洋士	藤原　敏郎	町田　昌紀	田中　雅人
会長表彰	齊藤　峰信	長野　純一	榊原　秀典	大西　稔彦	山田　貴秀
会長感謝状	草壁　浩之	中川　達矢	下郡　俊映	岩佐　耕志	田光　　創
	檜垣　圭太	山元　勝敏	明上　辰巳	榎本　俊輔	南　　裕康
会長特別表彰	山本友美子	中野　茂彦	米ヶ田愛子		

令和２年度　歯科技工士法制定･日本歯科技工士会創立65周年記念

厚生労働大臣表彰	中西　正泰		
日技会長表彰	金井　充信	福山　保則	南部　哲男

令和７年９月27日　歯科技工士法制定･日本歯科技工士会創立70周年記念

厚生労働大臣表彰	小谷　和弘		
日技会長表彰	前川　清和	南郷谷　亨	長久　宏之

歴代役員（昭和 30 年 9 月～現在）

●昭和30年 9 月11日～昭和34年 3 月31日

会　　長	宮津　　一				
副 会 長	富田　雄一	岡田　良平	石井　　司		
専務理事	迫　　末弘				
理　　事	成瀬　元吾	安原　康雄	布谷　正明	三谷　邦男	速水　繁次
	岡崎　和男	斉田　　弘	鎌田　恒郎	西田　圭介	折田　実意
	玉岡　憲三	今井　鶴一	宮国　恵仁	越塚十四夫	名取　広次
	徳留　利男	佐藤　歳秋	岡村　公平	森　　恵寿	松島　政雄
	滑川　一彦	溝川　泰治	太田　正一		
監　　事	中田四三三	小野木義広			

●昭和34年 4 月 1 日～昭和36年 3 月31日

会　　長	小原　時重				
副 会 長	西田　圭介				
理　　事	森田　一人	伊藤　正三	清水　広美	宮下　政夫	渋川　昌三
	名取　広次	平岡　俊郎			
監　　事	安原　康雄	鎌田　恒郎			
議　　長	山崎　育生				
副 議 長	小味　三郎				

●昭和36年 4 月 1 日～昭和38年 3 月31日

会　　長	西田　圭介				
副 会 長	中村　　巖	川上　富雄			
専務理事	三谷　喜彦				
理　　事	羽淵　省三	森本　一平	小味　三郎	伊藤　正三	北村　　敏
	岡田　次雄	河野　達行	岡崎　和夫		
監　　事	小原　時重	清水　広美			
議　　長	迫　　末弘				
副 議 長	森田　一人				

●昭和38年４月１日～昭和40年３月31日

会　　長	迫　　末弘				
副 会 長	森田　一人	安原　康雄			
専務理事	三谷　喜彦				
理　　事	山崎　育生	矢野　　修	中友　治郎	森本　一平	名取　広次
	丸崎　孝一	河本　節生	小味　三郎	長田　　勲	伊藤　正三
	谷口　英雄	堀川　信一	岡崎　和夫	河野　達行	徳永　　尚
	中村　　巌	玉岡　和夫	太田栄三郎	斉藤　　勇	
監　　事	西田　圭介	鎌田　恒郎			
議　　長	溝川　泰治				
副 議 長	推木　貴知				

●昭和40年４月１日～昭和42年３月31日

会　　長	西田　圭介				
副 会 長	山崎　育生	小味　三郎			
理　　事	長田　　勲	森本　一平	堀川　信一	町田　和雄	河上　重信
	徳永　　尚	藤村　宜志	名取　広次	丸崎　孝一	永野　忠重
	本堂　義雄	井上　雅雄	船越　久夫	尾上　隆夫	渡辺　哲男
	岡崎　和夫	片之坂秀彦	宮国　恵仁	井上　定治	岡村　公平
監　　事	安原　康雄	島　　清治			
議　　長	溝川　泰治				
副 議 長	丸崎　孝一				

●昭和42年４月１日～昭和44年３月31日

会　　長	三谷　喜彦				
副 会 長	川上　富雄				
専務理事	島　　清治				
理　　事	山崎　章男	斉藤　　勇	丸崎　孝一	吉田　敏男	小牟田政美
	和田　弘毅	森田　　明	藤村　宜志	田代　鹿之	尼崎　信男
	小味輪　好	鞠山　進一	安達　　実	左子　　博	片之坂秀彦
	名原　五雄	森岡　　寛	伊藤幸次郎		
監　　事	安原　康雄	西田　圭介			
議　　長	尾上　隆夫				
副 議 長	丸崎　孝一				

●昭和44年４月１日～昭和46年３月31日

会　　長	三谷　喜彦				
副 会 長	川上　富雄	和田　弘毅			
専務理事	尾上　隆夫				
理　　事	小味輪　好	尼崎　信男	谷垣　春治	南郷谷　博	町田　和雄
	岡崎　和夫	長田　　勲	山田　　久	平瀬　清治	森田　　明
	宮国　恵仁	岡村　公平	牧野　トモ	左子　　博	河上　重信
	長田　玄太	森岡　　寛	名原　五雄	小牟田政美	
監　　事	島　　清治	安原　康雄			
議　　長	山崎　育生				
副 議 長	西田　圭介				

●昭和46年４月１日～昭和47年３月31日

会　　長	川上　富雄				
副 会 長	尾上　隆夫	河野　達行			
専務理事	宮国佑樹次				
理　　事	藤村　宜志	船本　信正	増田　　豊	関田　誠二	小味　三郎
	石田　　晃	麻生　隆則	岡村　公平	中川　益夫	山田　　久
	横山　幹也	堀川　信一	長田　玄太	内田　典夫	妻沼　和彦
	斉藤　純一	那須　計吉	松島　　昇		
監　　事	三谷　喜彦	森本　一平			
議　　長	山崎　正男				
副 議 長	鷲山　　隆				

●昭和47年４月１日～昭和49年３月31日

会　　長	山崎　育生				
副 会 長	小味　三郎	森本　一平			
専務理事	宮国佑樹次				
理　　事	名取　広次	杉本　芳樹	中谷　幸一	藤村　宜志	増田　　豊
	船本　信正	堀川　信一	水谷　俊介	長田　玄太	石田　　晃
	麻生　隆則	徳留　啓喜			
監　　事	尾上　隆夫	鎌田　恒郎			
議　　長	河野　達行				
副 議 長	東　　芳雄				

●昭和49年４月１日～昭和50年３月31日

会　　長	小味　三郎				
副 会 長	川上　富雄	内田　典夫			
専務理事	河野　達行				
理　　事	船本　信正	大塚　勝弘	藤村　宜志	矢田　雅年	大植　　出
	轡　　芳郎	中瀬古　勲	森　　績	一棟　徳和	速見　　憲
	片之坂秀彦	森田　親志			
監　　事	尾上　隆夫	迫　　末弘			
議　　長	宮国佑樹次				
副 議 長	森岡　　寛				

●昭和50年７月１日～昭和51年３月31日

会　　長	尾上　隆夫				
副 会 長	本川　力男	那須　計吉			
専務理事	森岡　　寛				
理　　事	立川　禎孝	後藤　信男	藤村　宜志	伊藤幸次郎	大植　　出
	堀川　信一	佐藤　　晃	吉田　敏男	速見　　憲	中山　征平
議　　長	宮国　恵仁				
副 議 長	西田　圭介				

●昭和51年４月１日～昭和53年３月31日

会　　長	尾上　隆夫				
副 会 長	本川　力男	那須　計吉			
専務理事	森岡　　寛				
理　　事	後藤　信男	立川　禎孝	永楽　一成	伊藤幸次郎	田代　鹿之
	堀川　信一	佐藤　　晃	石田　　晃	横山　幹也	岩川　泰平
	速見　　憲	中山　征平	深川　浩宣		
監　　事	山崎　育生	藤村　宜志			
議　　長	米倉　正雄				
副 議 長	河野　達行				

●昭和53年４月１日～昭和55年３月31日

会　　長	尾上　隆夫				
副 会 長	本川　力男	長田　　勲	米倉　正雄		
専務理事	森岡　　寛				
理　　事	後藤　信男	永楽　一成	堀川　信一	山崎　章男	横山　幹也
	川端　紘之	橋本　　章	森　　弘充	迫　　真次	中山　征平
監　　事	藤村　宜志	河野　達行			
議　　長	船本　信正				
副 議 長	田中　淳三				

●昭和55年４月１日～昭和57年３月31日

会　　長	米倉　正雄				
副 会 長	川上　富雄	山崎　章男	斉藤　純一		
専務理事	速見　　憲				
理　　事	大谷　　壽	森脇　澄人	中島　義明	藤村　宜志	小桜和三郎
	尼崎　信男	米倉　　明	藤原　俊彰	藤井　道雄	西川　勝美
監　　事	森本　一平	滝川　俊夫			
議　　長	船本　信正				
副 議 長	田中　淳三				

●昭和57年４月１日～昭和59年３月31日

会　　長	長田　　勲				
副 会 長	山崎　章男	森岡　　寛	河野　達行		
専務理事	平田　　淨				
理　　事	徳留　啓喜	藤村　宜志	松王　利雄	橋本　　章	堀川　信一
	名取　広次	三谷　一壽	藤田　　明	藤原　良光	和田　　勇
	森嶋　重昭				
監　　事	滝川　俊夫	南郷谷　博			
議　　長	小味　三郎				
副 議 長	貝原　紘一				

●昭和59年４月１日～昭和62年３月31日

会　　長	米倉　正雄				
副 会 長	森岡　　寛	山崎　章男	斉藤　純一		
専務理事	速見　　憲				
常務理事	田中　淳三	郷上　　勲	内田　典夫		
理　　事	横山亜紀男	藤井　道雄	川端　紘之	米倉　　明	友西　康博
	大鶴　　隆	桂　　安宏	栄長　貞将		
監　　事	森本　一平	滝川　俊夫			
議　　長	小味　三郎				
副 議 長	大城　源盛				

●昭和62年４月１日～平成２年３月31日

会　　長	米倉　正雄				
副 会 長	山崎　章男	内田　典夫	大谷　　壽		
専務理事	速見　　憲				
常務理事	友西　康博	大鶴　　隆			
理　　事	早川　正晃	延原　　圖	森　弘充	濵渦　正資	鮫島　勝文
	中島　　元	米倉　　明	松田　直樹		
監　　事	森本　一平	滝川　俊夫			
議　　長	田中　淳三				
副 議 長	西本　辰二				

●平成２年４月１日～平成５年３月31日

会　　長	米倉　正雄				
副 会 長	中島　義明	森　弘充	大鶴　　隆		
専務理事	河野　達行				
常務理事	名取　広次	中島　　元			
理　　事	米倉　　明	西向　栄一	一棟　徳和	松田　直樹	広田　泰良
	竹内　　清	岸本　秋朗	南郷谷　亨		
監　　事	滝川　俊夫	山崎　章男			
議　　長	田中　淳三				
副 議 長	野首　光男				

●平成５年４月１日～平成８年３月31日

会　　長	森岡　　寛				
副 会 長	友西　康博	内田　典夫	藤原　良光		
専務理事	速見　　憲				
理　　事	中島　　元	濵渦　正資	鮫島　勝文	早川　正晃	堀川　信一
	藤谷　孝夫	小寺　　徹	重光　俊憲	辻　　勇	角地　達男
	裏部　邦夫	平林　良高	北尾　彰久		
監　　事	徳留　啓喜	橋本　　章			
議　　長	田中　淳三				
副 議 長	野首　光男				

●平成８年４月１日～平成11年３月31日

会　　長	森岡　　寛				
副 会 長	田中　淳三	内田　典夫	塚原　敏彦		
専務理事	速見　　憲				
常務理事	濵渦　正資	内木　雄一	山本　靖廣	堀川　信一	
理　　事	藤谷　孝夫	重光　俊憲	辻　　勇	南部　哲男	岡﨑　秀一
	福間　正泰	浦野　弘司	阪下　栄治	熊沢　洋一	西浦　博子
監　　事	藤村　宜志	浅野　明敏			
議　　長	藤原　俊彰				
副 議 長	野首　光男				

●平成11年４月１日～平成14年３月31日

会　　長	速見　　憲				
副 会 長	大谷　　壽	中島　　元	大森　三生		
専務理事	三谷　一壽				
常務理事	友西　康博	重光　俊憲	福間　正泰	堀川　信一	
理　　事	内木　雄一	南部　哲男	阪下　栄治	西　　康文	時見　高志
	杉田　順弘	八尾　孝一	塚口　真守	山下　茂子	石田　美保
監　　事	浅野　明敏	内田　典夫			
外部監事	西　　貢平				
議　　長	藤原　俊彰				
副 議 長	野首　光男				

●平成14年４月１日～平成17年３月31日

会　　長	速見　　憲				
副 会 長	藤原　俊彰	大森　三生	阪下　栄治		
専務理事	三谷　一壽				
常務理事	時見　高志	重光　俊憲	福間　正泰	堀川　信一	
理　　事	岸本　秋朗	山下　茂子	谷　裕次郎	小谷　和弘	福山　保則
	大石　直之	伊東　香織			
監　　事	内田　典夫	米倉　　明			
外部監事	西　　貢平				
議　　長	田中　淳三				
副 議 長	野首　光男				

●平成17年４月１日～平成20年３月31日

会　　長	速見　　憲				
副 会 長	藤原　俊彰	時見　高志	重光　俊憲		
専務理事	阪下　栄治				
常務理事	福間　正泰	岸本　秋朗	小谷　和弘	山下　茂子	吉田　忠司
理　　事	福山　保則	大石　直之	堀　　丈司	中西　正泰	久国　達彦
	本多　晴久	池田　尚弘			
監　　事	田中　淳三	濵渦　正資			
外部監事	西　　貢平				
議　　長	野首　光男				
副 議 長	野澤　健二				

●平成20年４月１日～平成23年３月31日

会　　長	時見　高志				
副 会 長	重光　俊憲	福間　正泰	山下　茂子		
専務理事	小谷　和弘				
常務理事	福山　保則	大石　直之	中西　正泰	芝原　和彦	
理　　事	本多　晴久	金井　充信	清水　潤一	前川　清和	大池　信也
	森　　直美				
監　　事	岸本　秋朗	一棟　徳和			
外部監事	西　　貢平				
議　　長	野首　光男				
副 議 長	野澤　健二				

●平成23年４月１日～平成26年６月28日

会　　長	時見　高志								
副 会 長	重光　俊憲		福間　正泰		山下　茂子				
専務理事	小谷　和弘								
常務理事	福山　保則		大石　直之		中西　正泰		芝原　和彦		
理　　事	本多　晴久		金井　充信		清水　潤一		前川　清和		大池　信也
	森　　直美								
監　　事	岸本　秋朗		阪下　栄治						
外部監事	西　　貢平								
議　　長	野首　光男								
副 議 長	中川　和彦								

●平成26年６月28日～平成28年６月11日

会　　長	時見　高志								
副 会 長	重光　俊憲		山下　茂子		小谷　和弘				
専務理事	清水　潤一								
理　　事	西　　康文		中西　正泰		大池　信也		野澤　健二		南郷　孝嘉
	森　　直美		上西　永司		千葉　直樹		前川　清和		原　　利和
監　　事	福間　正泰		大西　正和						
外部監事	西　　貢平								
議　　長	野首　光男								
副 議 長	中川　和彦								

●平成28年６月11日～平成30年６月23日

会　　長	清水　潤一								
副 会 長	重光　俊憲		山下　茂子		西　　康文				
専務理事	岸本　秋朗								
理　　事	南郷　孝嘉		本多　隆男		森　　直美		中川　正史		前川　清和
	田中　洋佑		千葉　直樹		冨田　真行		野澤　健二		長久　宏之
監　　事	小谷　和弘		本多　晴久						
外部監事	西　　貢平								
議　　長	野首　光男								
副 議 長	中川　和彦								

●平成30年６月23日～令和２年６月13日

会　　長	清水　潤一					
副 会 長	西　　康文	小谷　和弘				
専務理事	本多　隆男					
統括理事	前川　清和	野澤　健二	荻野　勝也			
理　　事	岩佐　達也	南郷　孝嘉	森　　直美	山本　吉保	榎本　俊輔	
	田中　洋佑	長久　宏之				
監　　事	山下　茂子	野首　光男				
外部監事	宮崎　浩記					
議　　長	中川　和彦					
副 議 長	上原　禎治					

●令和２年６月13日～令和４年６月11日

会　　長	清水　潤一					
副 会 長	小谷　和弘	櫻井　靖之	前川　清和			
専務理事	本多　隆男					
統括理事	荻野　勝也	長久　宏之	岩佐　達也			
理　　事	森　　直美	田中　洋佑	山本　吉保	榎本　俊輔	山口　雅弘	
	南　　裕康	メーケルブールグ明美				
監　　事	山下　茂子	野首　光男				
外部監事	宮崎　浩記					
議　　長	中川　和彦					
副 議 長	上原　禎治					

●令和４年６月11日～令和６年６月22日

会　　長	前川　清和					
副 会 長	小谷　和弘	櫻井　靖之	南郷谷　亨			
専務理事	岩佐　達也					
統括理事	長久　宏之	小山　邦宏	メーケルブールグ明美			
理　　事	山本　吉保	南　　裕康	平井　　稔	下郡　俊映	嘉戸　秀年	
	脇本菜々子					
監　　事	山下　茂子	野首　光男				
外部監事	宮崎　浩記					
議　　長	中川　和彦					
副 議 長	上原　禎治					

●令和６年６月22日～令和８年６月27日

会　　長	前川　清和				
副 会 長	櫻井　靖之	南郷谷　亨	長久　宏之		
専務理事	堀之内朋哉				
常務理事	山本　吉保	下郡　俊映	脇本菜々子		
理　　事	下郡　綾子	岩佐　美穂	花田　純枝	武田　　航	畑木　信之
	田光　　創	泉　　慶亮			
監　　事	野首　光男	小谷　和弘			
外部監事	中林　祐太				
議　　長	中川　和彦				
副 議 長	上原　禎治				

歴代支部長（平成 28 年 6 月～現在）

支部名	H28.6 ～ H30.6	H30.6 ～ R2.6	R2.6 ～ R4.6	R4.6 ～ R6.6	R6.6 ～ R8.6
北大阪	山口　雅弘	山口　雅弘	堀之内朋哉	堀之内朋哉	有馬　利樹
北東	友西　康輔	友西　康輔	友西　康輔	友西　康輔	友西　康輔
中央北	池田　和久	池田　和久	林　　大介	林　　大介	林　　大介
中央南	清見　友彦	町田　昌紀	町田　昌紀	町田　昌紀	小出　俊介
南大阪	小原　雅生	畑木　信之	畑木　信之	畑木　信之	南郷　孝嘉

会員数の推移

年度	会員数	年度	会員数	年度	会員数
昭和30年度	652	昭和54年度	885	平成15年度	1,434
昭和31年度	672	昭和55年度	892	平成16年度	1,341
昭和32年度	360	昭和56年度	1,264	平成17年度	1,325
昭和33年度		昭和57年度	1,390	平成18年度	1,299
昭和34年度		昭和58年度	1,480	平成19年度	1,242
昭和35年度	310	昭和59年度	1,884	平成20年度	1,226
昭和36年度	128	昭和60年度	1,856	平成21年度	1,191
昭和37年度		昭和61年度	1,845	平成22年度	1,145
昭和38年度	294	昭和62年度	1,922	平成23年度	1,117
昭和39年度	282	昭和63年度	1,900	平成24年度	1,072
昭和40年度	240	平成元年度	1,813	平成25年度	1,032
昭和41年度		平成２年度	1,740	平成26年度	1,070
昭和42年度		平成３年度	1,702	平成27年度	1,080
昭和43年度	276	平成４年度	1,726	平成28年度	1,106
昭和44年度	283	平成５年度	1,740	平成29年度	1,084
昭和45年度	325	平成６年度	1,758	平成30年度	1,045
昭和46年度	435	平成７年度	1,767	令和元年度	1,046
昭和47年度	511	平成８年度	1,742	令和２年度	1,018
昭和48年度	542	平成９年度	1,764	令和３年度	1,016
昭和49年度	573	平成10年度	1,722	令和４年度	955
昭和50年度	572	平成11年度	1,644	令和５年度	967
昭和51年度	652	平成12年度	1,581	令和６年度	937
昭和52年度	702	平成13年度	1,512	令和７年度	938
昭和53年度	729	平成14年度	1,467		

創立70周年記念

会　史

令和８年５月

発行　一般社団法人　大阪府歯科技工士会

〒558-0014 大阪市住吉区我孫子5－14－7

TEL 06-6699-4400

編集　大阪府歯科技工士会　会史編纂委員会

制作　さんきゅう堂有限会社